

# 令和3年度事業計画

社会福祉法人 足羽福祉会  
理事長 高村 昌裕

グローバル化の急激な進展と世界の人口増加、情報技術の飛躍的革新、それらに伴う気象変動と環境破壊、貧富の格差といった諸問題の複雑化の中、新型ウイルス感染症のパンデミックにより、私たち人類は「この時代をどう生きるか」、さまざまな価値や思考、行動の変容を求められています。まさに今、時代の転換期に私たちはいるのです。

しかしながらこれからどんなに AI 等の技術革新が起きるとしても、利用者様の命や安心、安全な生活を守る「エッセンシャル・ワーカー」として、私たち福祉従事者の存在意義は、ますます重要になってきます。そして「ウイズコロナ」の時代にあっても、利用者様がその人らしく生きることをどう実現させていくか、また背景にある家族や本人が生活する地域が抱える諸課題をどう解決していくか、そのためにも、私たちは人や地域を支えていくための専門性をより高めていかねばなりません。

そんな中、本年度は私たちがめざすべき共生社会の実現に向けて策定された「第IV期中期事業計画」の2年目に入ります。スローガンは引き続き「たのしもう、つながろう、そして乗り越えよう」。それらを踏まえた令和3年度事業計画を以下の通り作成しました。目標の達成に向けて、従来のやり方や価値にとらわれることなく、「こうしたらもっと良くなる」「イイね👍」「より安心だ」と利用者様の笑顔、地域の人々の笑顔、そして職員の笑顔が広がっていくよう、みんなで話し合い、行動していきましょう!!

未来を作るのは私たち自身です。

## 【法人全体で取り組む重点項目】

1. 保育、障がい児者支援、介護それぞれの分野での支援計画策定やケース会議において、本人中心の視点（ストレングス、パーソンセンタードケア等）を徹底し、チームで取り組みます。
2. 地域や社会全体の様々な課題（生活困窮、防災、まちづくり等）について、2030年に向けた「足羽福祉会 SDGs 宣言」を発信し、具体化した自分たちの行動目標に取り組みます。
3. 新人事管理制度「あすわ ers」2年目として、制度理解をいっそう進めます。また女性や障害のある方、高齢者が活躍できる体制を整えると同時に、中途採用職の採用および教育体制の充実強化を図ります。
4. ICT の積極活用として、権限移譲を明確にしながらの電子決裁導入、事務処理の簡素化（モバイル化）および情報共有化を推進しながら、ペーパーレス化を進めます。
5. 足羽東こども園の園舎改築を行い、地域とのつながりの中で子どもたちが健やかに成長できるよりよい環境整備を行います。また工事期間中、別建物にて子どもたちが安全に過ごせるよう教育保育活動を行います。
6. 小規模事業所（足羽児童発達支援センター拠点、パステル拠点、あすわ相談支援事業所リアン拠点）の経営安定化に向けた取組みを障がい福祉部門ならびに法人全体で支援します。

## 【各拠点事業計画の重点項目】

### 1. 利用者様と共に

#### (1)夢や幸せを実現する取組み

- ① 児童福祉部門間の合同行事として「子どものアート展」や保護者や職員対象の「公開セミナー」の実施（打ち合わせ：年3回）【足羽学園】
- ② 生活の連続性保障を目的とした「特に気になる子ども」への支援を強化。【啓明児童クラブ】
- ③ こども福祉部門の合同行事として、「こどものアート展」や保護者や職員等対象の「公開セミナー」の実施。（打ち合わせ：年3回）【あすわ児童発達支援センター】
- ④ 利用者様の夢や希望の実現や権利擁護の視点に立って、年間1,200件以上の計画作成、モニタリング、更新を維持。【あすわ相談支援事業所リアン】
- ⑤ 利用者一人ひとりのストレングス（強み、力、良さ）に視点をおき、個々の実現可能な個別支援計画や記録様式見直しによる「成長が視える化」の実施【足羽更生園】
- ⑥ ユニバーサルスポーツ（ボッチャ、卓球バレー等）を活動に取入れ、利用者様の健康維持増進、ソーシャルスキル向上を目指す【カラフル】
- ⑦ 重度・高齢化してくる利用者様も安心して利用できるゆるやかなB型事業所として活動できるよう、利用者様の体調管理を重点的に行いながらの個別支援。【足羽サポートセンター】
- ⑧ 地域が求めているアウトリーチ型の訪問支援（生活支援、家族支援、在宅ワークなど）の実施。【パステル】
- ⑨ ○展2021やアールブリュット展への出品に向けた、創作活動の支援。【あすわ第1・第2・第3】
- ⑩ 事業所内で8事例(ユニット型3事例・従来型・ショートステイ・デイサービス・GH・居宅介護支援)のテーマを掲げ、専門家のアドバイスを基に「その人らしさ」「その人のできること探し」ができる支援の研究実践。また、部門内での事例発表と、事業所間で研鑽ができる機会の取組み。【愛全園】
- ⑪ 利用者様中心のケア推進。
  - ・パーソンセンタードケア(サービス提供指針)の推進【グループホーム美山】
- ⑫ 自立支援・重度化防止。
  - ・科学的介護の浸透と全利用者様に着実な実践
  - ・科学的介護推進体制加算取得  
(認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護)【グループホーム美山】
- ⑬ 1事例研究テーマを掲げる。3地区の現状分析しその地区の課題や特性を探り、応じた取組みを実践。評価を行いサービス実践報告会で発信。【福井大東包括支援センター】

#### (2)安心、尊厳を守る取組み

- ① 感染症や事故から子ども達を守る取組みや保護者連携の実施【足羽東こども園】

- ② 「成長が視える化」をもとに「〇〇さんだより」を個別に作成・発行し、コロナ禍における家族の「不安を安心に繋げる」取組みの実施【足羽更生園】
- ③ 成年後見制度への理解、認知症への理解、介護技術の習得を進め、高齢利用者支援における専門性の向上を目指す。【カラフル】
- ④ クーポン検診活用及び健康診断結果を踏まえ、早期発見早期治療を医療機関と連携し実施。健康を維持する活動推進。誤薬ゼロを目標として、投薬支援の研修実施。【あすわ第1・第2・第3】
- ⑤ 健康で安心できる日常生活を確保するため（理念と実践）、これまでの科学的介護の実践を基に、根拠に基づいたサービス提供から評価へのPDCAサイクル実践。（ご利用者様が何を求めているかを意識した効果的なケアの提供）【愛全園】
- ⑥ 高齢者虐待防止の取組みを通して、人権、尊厳の保持。
  - ・ 高齢者支援分野共通の取組み
  - ・ 指針に基づいた取組みの実践【グループホーム美山】

## 2. 地域と共に

### (1)社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① ホームページやおたよりを通して、児童クラブの活動を地域に発信。（年3回以上）【上文殊児童クラブ】
- ② 児童福祉部門「子どものアート展」の合同行事に児童作品展示で参画【啓明児童クラブ】
- ③ 事業所周辺の「花いっぱい運動」やイベント出店など交流活動を通して、障がい学習、障がい理解を目指した情報発信の実施（成和地区）。【スマイル】
- ④ 積極的に他事業所、特別支援学校等の教育機関、医療機関等を訪問して地域ニーズを聴取し反映・実行。【パステル】

### (2)地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 関係機関と連携を強める活動の実施  
上文殊小学校、公民館、同法人啓明児童クラブ、足羽東こども園等との合同会議、情報交換及び交流の実施。（年5回以上）また、児童福祉部門の合同行事の「子どものアート展」に児童の作品を展示参画。【上文殊児童クラブ】
- ② 法人内職員の認知症サポーター養成講座を開催、講師は法人内キャラバンメイトに依頼（活躍の場提供）、企画運営支援。【福井大東包括支援センター】

## 3. 職員と共に

### (1)目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。【法人本部】
- ② 職員の専門性を向上させるためPECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム：2名派遣）などの専門療法や自閉症eサービスなどの専門機関の研修

への職員派遣（リモート研修含む）【足羽学園】

- ③ 専門性向上に対する職員の学習意欲を尊重し、外部専門研修への積極的な参加。  
【あすわ相談支援事業所リアン】
- ④ 法人内障害者福祉部門全体で相談支援専門員養成を計画的に育成。【あすわ相談支援事業所リアン】
- ⑤ 法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うための e ラーニング等を活用したプログラムの検討、パート・派遣職員向けの自閉症支援、接遇、リスクマネジメントなど勉強会の実施。【スマイル】
- ⑥ 利用者様の支援の充実を目指し、高齢者福祉部門との連携による介護技術の習得、介護福祉士資格の令和 4 年度取得者 1 名の推進。【カラフル】
- ⑦ 利用者様支援の充実を目指して、法人内研修、県内各研修への参加と関係機関とのケースカンファレンスの実施により職員のスキルアップを図る体制。【足羽サポートセンター】
- ⑧ 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。コミュニケーション・OJT を通じ、全職員のあすわ ers への理解を深め、一人ひとりが協力して目標を認識・達成できる体制作り。【愛全園】
- ⑨ 各職種の専門性の向上及び自己課題の克服のために上司よりアドバイスをもらい、研修を選択。受講、実務で実践。【福井大東包括支援センター】

## (2)安心して働ける健康経営の取組み

- ① 就業奉行、勤怠クラウドを活用し、個々の業務量の適正化を進める（総超勤時間数の 25%減：668 時間減）。【足羽学園】

## (3)共に働く人を呼び込む取組み

- ① 福祉人材の確保について、介護福祉士養成施設等において介護の知識と技術を学ぶ者を支援する奨学金貸付制度の運用、外国人労働者の定着・確保のため EPA 介護福祉士候補者・外国人留学生（介護福祉士養成校）の積極的な働きかけを行っていくと共に、I・U ターン雇用推進企業として多様な人材確保や多様な働き方へのアプローチを推進。【法人本部】

# 4. 実施プロセス

## (1)法人の価値を高める取組み

- ① 広報戦略の充実を図る取組みとして、足羽福祉会の魅力をもっと知っていただき、地域社会から信頼される法人の存在意義を広くアピールする法人ホームページ、パンフレット、アニュアルレポート等、アウトソーシングも含め総合的に実施。【法人本部】

## ② 園舎改築の着工

地域に開かれたこども園として、工程に従った早目の準備や確認を進めながら

年度内完成を目指す。【足羽東こども園】

- ③ 重度障がい者等の受け入れを目指し、新たな生活介護事業所の立上げについてスマイルと協働で準備、実施【足羽更生園】
- ④ 就労継続支援 B 型事業・・・利用者様平均工賃 25,000 円以上実現。【足羽ワークセンター】
- ⑤ 重度障がい者等の受け入れを目指し、新たな生活介護事業所の立上げについて足羽更生園と協働で準備、実施。【スマイル】
- ⑥ 利用者様の平均工賃を 12,000 円 以上にするため、事業所内での施設外作業取り組み利用者数の増加。【足羽サポートセンター】
- ⑦ 令和 3 年度の福井市障がい者相談支援体制の事業所再公募に向けて、地域ニーズを受けられる実績（受入、事業促進等）の積み上げと受託検討。【パステル】
- ⑧ 共同生活住居たんぽぽの少人数化の実現に向けてグループホームを建設。【あすわ第 1・第 2・第 3】
- ⑨ 足羽利生苑改修計画に係る高齢者福祉部門チームでの構想を積み上げ。
  - ・SDGs 法人宣言にリンクした視点での情報収集
  - ・施設の特色・役割等包括的に鑑みた検討会議の定期開催【足羽利生苑】

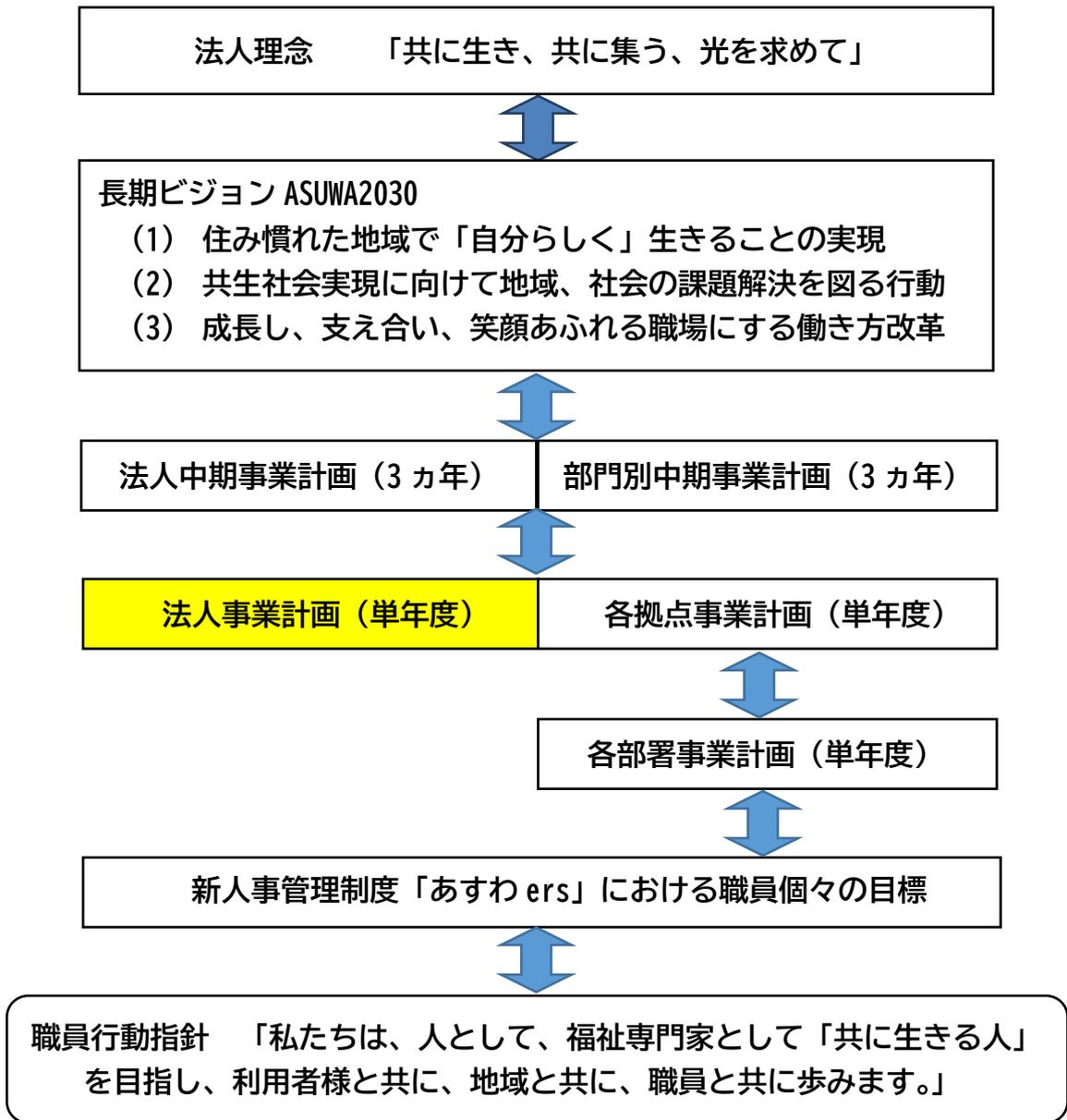
## (2) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決裁、労務管理システムの完全クラウド化及びペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的なルール作りを促進するための対応を図る。【法人本部】
- ② 記録の在り方について、児童福祉部門に学ぶ。【啓明児童クラブ】
- ③ ファイルメーカーの個別支援記録システムの活用と ICT 機器を使用した業務改善の推進。【あすわ児童発達支援センター】
- ④ グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的なルール作り。バージョンアップ後の個別支援記録システムの徹底活用(モバイル化、音声認識機能活用)による記録時間の捻出や簡素化推進。【足羽ワークセンター】
- ⑤ ICT 活用。
  - ・グループウェアを活用した電子決裁等権限移譲、保存等具体的なルールの理解浸透
  - ・会議資料、グラフや統計資料のデータ蓄積「見える化」の促進
  - ・ペーパーレスの実施に向けた経費削減管理の徹底によるコピー紙使用の削減率 10%以上を上乘せ向上【足羽利生苑】

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 年計画を達成する取組み

- ① フレンズみゆきの経営改善に向けて課題の抽出と解決に向けた取組みの計画的実施。【あすわ児童発達支援センター】
- ② 就労移行支援事業の展開方法を見直し、より短期間での就職実績、定着フォロー、利用者様確保の流れを確立。【足羽ワークセンター】



# 令和3年度事業計画

法人本部

## 実施事業

1. 法人本部事業
2. ボランティア育成、公益事業
3. 法人内託児所（ひまわり）事業

## 中期事業計画（重点項目）

1. 新人事制度「あすわers」の制度理解の推進
2. ICT活用における事業推進の展開
3. 多様な人材の確保と職場環境の向上

## 事業推進計画

### 1. 「利用者様と共に」

#### （1）夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① コロナ禍における法人内交流について Web 等を通して、利用者様一人ひとりの支援につながるよう法人交流委員会等で企画検討。

#### （2）安心、尊厳を守る取組み

- ① 次世代接遇トレーナーの計画的養成に向けて、接遇委員会の体制や在り方を検討。
- ② コロナ禍における事業継続計画（BCP）を検証し、法人全体の感染防止体制・防災サポート体制・リスク管理の体制強化（災害対策本部の在り方）。
- ③ 防災マネジャーの養成を計画的に取組み災害時対応の体制充実。

### 2. 「地域と共に」

#### （1）社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる「第9回足羽川ふれあいマラソン」を、外部委員を交えた組織委員会で協議し（年3回）、安全配慮・柔軟な運営により開催。引き続きランナーの参加料の一部は、県内の障がい者スポーツの振興に活用。
- ② 地域との交流「福祉×芸術」を推進するため、各拠点をサポートし参画。

#### （2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 福井市東部の地域ニーズを把握するため、地域関係者を交えての“語る会”（年1回）を企画。
- ② 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の推進を図るための協議の場を企画（年2回）。
- ③ 法人職員の認知症サポーター養成講座受講促進を継続。

### 3. 「職員と共に」

#### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。
- ② 多様な働き方ができる体制を整え、同時に中途採用職の教育体制の強化や階層別研修体系の構築と実施。
- ③ 女性活躍推進企業として、女性管理職・監督職者率 60%を目指す。また仕事と家庭の両立を図るロールモデルの定期的発信や職場環境改善の声を法人運営に反映。
- ④ 職員が成長するために必要な資格取得へのチャレンジ機会を提供。

#### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 社員ファースト企業として、計画的有給休暇（5日義務）、育児・介護・連続休暇の取得推進を積極的に推進。また子育てファミリー応援企業として法人内託児所の適切な運営等、ワークライフバランスに配慮した職場環境の充実。
- ② 労務管理は、各拠点相談内容の集約データ化を図り相談体制の充実に努め、社会保険労務士による巡回訪問も継続し職員の定着に向けた職場環境の改善。
- ③ 全職員対象にストレスチェック（11月実施）を継続し、心身の健康づくりに向けた健康経営宣言の実践と健康経営優良法人認定への準備。

#### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① ホームページや SNS 等含め求人活動のツールの充実、各事業所のリクルーターを育成し「足羽福社会および自事業所の強み」をアピールし、保育・障がい児者支援・高齢者介護などの専門性を重視した採用（WEB活用）を実施。中途採用については、関係機関を活用し多様な人材を受け入れる体制に取組む。
- ② インターンシップ受け入れ企業として、大学3年生や短大1年生に対し、福祉の仕事の理解と法人イメージアップを図るため各拠点と連携。
- ③ 各拠点と連携して、障害者法定雇用率以上の雇用（目標 4.5%）に努める。また雇用した障がい者に対する規程規則の理解促進や労働環境の整備を進めるための職場適応援助職員の設置（1名）。
- ④ 福祉人材の確保について、介護福祉士養成施設等において介護の知識と技術を学ぶ者を支援する奨学金貸付制度の運用、外国人労働者の定着・確保のため EPA 介護福祉士候補者・外国人留学生（介護福祉士養成校）の積極的な働きかけを行っていくと共に、I・Uターン雇用推進企業として多様な人材確保や多様な働き方へのアプローチを推進。

### 4. 実施プロセス

#### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福社会 SDGs 宣言」に沿って、2030年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。
- ② 広報戦略の充実を図る取組みとして、足羽福社会の魅力をもっと知ってい

ただき、地域社会から信頼される法人の存在意義を広くアピールする法人ホームページ、パンフレット、アニュアルレポート等、アウトソーシングも含め総合的に実施。

- ③ 「第 13 回サービス実践報告会」は外部専門家の協力を得る中、企画内容の充実。
- ④ 施設の老朽化による改築計画に基づき法人建設委員会の開催。（足羽東こども園改築工事・グループホームたんぽぽ改築）

## (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 理事会（隔月）、常勤理事経営会議や GM 会議（月 2 回）等の開催を行い、専門家（司法書士や社会保険労務士）の助言をいただきながら、外部環境や利用者様へのサービス向上のため内部管理体制を強化。
- ② 理事・評議員改選期（6 月）における適正な役員選任手続きの執行。
- ③ 「会計監査人」との連携を深め、各重点プロセス（収入、人件費、経費計上、入出金、固定資産および棚卸資産監理、計算書類等作成）において、現在実施している内容をもとに、さらなる「標準化」および「規定化（文書化）」を図り適切な内部統制を構築。

## (3) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決裁、労務管理システムの完全クラウド化及びペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作りを促進するための対応を図る。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① 各拠点の月次決算および法人全体の月次報告を定期的（1 か月以内）に実施。
- ② 法人本部で担当する会計責任者から各 GM 等に対して、月次レビューを通してタイムリーに情報を提供、経営安定化に向けた協議。
- ③ 各拠点の予算管理能力を高めるため、法人共通の収入管理ツール及び支出積算ツールを準備し活用。
- ④ 各拠点で予定する新規中規模事業については、会計及び財務面に止まらず、あらゆる面から調査を行い、中期及び長期資金計画を計画初期段階において作成。
- ③ 法人全体の支出に対してスケールメリットを活かした契約および購入の実施。
- ④ 現計画における大規模事業である、「足羽東こども園改築工事」及び「足羽利生苑施設増改築」の資金計画については、補助金の活用、各金融機関との折衝及び進行中の中規模事業計画並びに法人資金収支実績を慎重に判断し、「第Ⅳ期中期事業計画および 10 か年資金計画」を着実に推進。

### <職員配置計画>

正規職員	パートタイム職員	計
14 人	2 人	16 人

# 令和3年度事業計画

啓明児童クラブ

## 実施事業

### 1. 放課後児童クラブ運営事業

## 中期事業計画（重点項目）

1. 個々の成長を捉え、保護者と共に、一人ひとりに合った支援を提供しながら子供たち喜びや成長に繋げる。

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### （1）夢や幸せを実現する取組み

- ① 一人ひとりの「いいところ探し」、成長を保護者や本人に伝える・褒める取組み。
- ② 学年にかかわらず一緒に楽しめる活動内容の工夫と環境づくり。
- ③ **生活の連続性保障を目的とした「特に気になる子ども」への支援を強化。**

#### （2）安心・尊厳を守る取組み

- ① 学校との連携・情報共有化を促進、家庭への必要な情報提供と説明。
- ② 模範となる接遇の実践、利用者様と共に取り組む3S活動。
- ③ 美山地区に根ざした活動の充実、積極的な情報収集に基づく課題解決。

### 2. 地域と共に

#### （1）社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 感染拡大防止に配慮しながらの地域行事への参画。
- ② 地域や学校等との連携強化を目的とした運営委員会（年2回）の開催。
- ③ 地域の方々やボランティアとの交流（足羽川ふれあいマラソンへの参画）。
- ④ **児童福祉部門「子どものアート展」の合同行事に児童作品展示で参画**

#### （2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 各関係機関や同法人内事業所と共にさまざまなリスク軽減を図る取組み。
- ② SDGs 法人宣言の理解を深め、具体的行動目標計画の作成及び実践。
- ③ 第9回足羽川ふれあいマラソンを新型コロナウイルス防止対策での安全配慮、柔軟な運営に向け参画。

### 3. 職員と共に

#### （1）目標を描き、共に成長する取組み

- ① 2年目となる新人事管理制度「あすわers」の理解促進。
- ② 専門性を高めるための支援員研修への参加（2名派遣）。

③ 上文殊児童クラブとの定期的な合同会議を開催。

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

① 職員の働き方に応じた業務内容や役割分担等の職場環境整備。

② 計画的年次有給休暇 5 日取得、法人ストレスチェックの実施。

③ 職場内のコミュニケーション活性化、公民館等外部との良好な関係性づくり。

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

① 夏休み等の長期休暇に対応できる職員体制確立。

② 地元から人材確保につながる情報収集。

#### 4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

① 法人ホームページ・おたよりの充実、広く地域に向け当クラブの活動を発信。

② 美山地区各小学校・みやま認定こども園との情報共有、安全・快適な環境整備。

(2) 合理化と効率化を推進する取組み

① 記録の在り方について、児童福祉部門に学ぶ。

② マニュアルの見直し等の業務改善を实践、ウェブ会議の活用を継続。

#### 5. 経営基盤の強化

(1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

① 月次決算による運営状況の把握、ペーパーレスへの取組み推進。

② 法人本部・バックアップ施設との連携、設備等の老朽化対応。

#### <数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入	職員数 (正規)	職員数 (パートタイム)
放課後児童クラブ 運営事業	430 人	5,160 人	9,832 千円	3 人 (兼 2 人)	8 人

# 令和3年度事業計画

上文殊児童クラブ

## 実施事業

### 1. 放課後児童クラブ運営事業

## 中期事業計画（重点項目）

1. 成長の喜びに繋がるよう、一人ひとりに合った支援を実践
2. 地域への情報提供の強化と地域課題への対応
3. 新人事管理制度(あすわ ers)への理解と働きやすい職場となる取組み

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現する取組み

- ① 本人の視点に立った一人ひとりの特性に合わせた関わりの継続や、個々の良いところを保護者や本人に伝え喜び合う支援の提供。
- ② 主体的な遊びが可能となる、材料や遊具等の整備し、一人ひとりが生きいきと遊びや、生活を楽しめる空間づくりの実施。

#### (2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 職員は、学校教育課の指導を基にコロナ感染予防対策を実施する。また、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の取組みを利用者と共に積極的に実施。
- ② 児童一人ひとりの人格を尊重した関わりを行い、子ども達との信頼関係を構築。

### 2. 地域と共に

#### (1) 社会とのより良い関係づくりを強化する取組み

- ① 足羽川ふれあいマラソンへの参加  
子ども達の体力向上や地域の方との繋がりが深まることを目的のひとつとし、積極的な参加を呼びかけ。
- ② ホームページやおたよりを通して、児童クラブの活動を地域に発信。  
(年3回以上)

#### (2) 地域の為に法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援の取組み  
生活困窮者における法人内連携に関わると共に、地域の児童健全育成に関する支援を行う中で、地域における課題を知り、法人の役割について検討。
- ② 関係機関と連携を強める活動の実施

上文殊小学校、公民館、同法人啓明児童クラブ、足羽東こども園等との合同会議、情報交換及び交流の実施。(年5回以上)また、児童福祉部門の合同行事の「子どものアート展」に児童の作品を展示参画。

### 3. 職員と共に

#### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① あすわ ers でのラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常の OJT に生かした取組みの実践。
- ② 職員の労働時間、業務内容、当番体制等を職員の協力で進め、働きやすい環境の提供。

#### (2) 安心して働ける健康経営の取組み。

- ① 生きいきと働けるよう、職員の心と体の健康管理に対し細やかなケアの実践。

#### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 延長利用、長期休業期間に対応できる職員、ボランティア募集。

### 4. 実施プロセス

#### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福社会 SDGs 宣言」に沿って 2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践への取組み。
- ② 小学 1 年から 6 年まで、長期休業時等突発的な利用者を含め積極的に受け入れ。

#### (2) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① ICT 活用による業務改善  
グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施、文書管理等のルール作りの実施。

### 5. 経営基盤の強化

- ① 正しい財務処理を、本部職員と連携し実施。

#### <数値目標>

事業	年間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入	職員数 (正規)	職員数 (パートタイム)
放課後児童クラブ 運営事業	350 人	4,200 人	5,549 千円	3 人 (兼 2 人)	6 人 (兼 2 人)

# 令和3年度事業計画

足羽東こども園

## 実施事業

### 1. 幼保連携型認定こども園

## 中期事業計画（重点項目）

1. 個々の状況に合わせ、喜びや成長に繋がる支援の実践
2. 新人事管理制度(あすわ ers)への理解と働きやすい職場となる取組み
3. 園舎改築の着工及び完成

## 事業推進計画

### 1. 利用者と共に

#### (1) 夢や幸せを実現する取組み

- ① こどもや保護者の成長、育児力向上のため、子ども達の視点に立ち、個々の良いところを見つけ、褒め、伸ばしていく支援を実施。特別な関わりが必要な子への支援や遊びや活動の展開については、ケース会議や園内研修で事例検討を行い、より良い支援を継続。
- ② 幼児教育から小学校への接続に向けた取組みを実施。（「育ってほしい10の姿」を目指した実践及び報告）
- ③ 児童福祉部門の合同行事として「こどものアート展」や保護者や職員等対象の「公開セミナー」の実施。（準備等の会議：年3回）

#### (2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① **感染症や事故から子ども達を守る取組みや保護者連携の実施**
- ② 子ども達へのやさしい関わりや接遇の徹底。

### 2. 地域と共に

#### (1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 足羽川ふれあいマラソンへの参加  
子ども達の体力向上や地域の方との繋がりが深まることを目的のひとつとし、積極的な参加を呼びかけ。
- ② 地域への情報提供の充実(チラシ等の配布及びHP更新 月1回以上)。

#### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援の取組み  
生活困窮者における法人内連携に関わると共に、地域会議へ積極的に参加し、地域における課題を知り、法人の役割について検討。
- ② ボランティアの受入れ  
新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。

### 3. 職員と共に

#### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

##### あすわ ers 定着への取組み

① あすわ ers でのラダー、等級基準項目、バリュー項目についての理解を深め、日常の OJT に取り組んでいく。また月 1 回各項目についての意見交換を引き続き実践。

#### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

有休、連続休暇、産休育休取得など、シフトや配置を工夫し、職員が働きやすい環境を整備。

#### (3) 共に働く人呼び込む取組み

さまざまな立場の人の活躍の場の提供。(主婦 高齢者雇用)

### 4. 実施プロセス

#### (1) 法人の価値を高める取組み

##### ① 園舎改築の着工

地域に開かれたこども園として、工程に従った早目の準備や確認を進めながら年度内完成を目指す。

##### ② 仮園舎での安全保育の実施

子ども達が安心した日常を送れるよう、職員が一丸となって環境の整備。

##### ③ SDGs の取組み

「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って 2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

#### (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

役割分担を明確にし、上司からの確認や指導、職員同士の情報伝達への取組みの実施。

#### (3) 外部評価や認証制度の活用

福井市のアクションプログラムを活用し、各項目達成を目指した活動を実施。保護者や地域に向け、結果を含めた内容を玄関等に掲示。

#### (4) 合理化と効率化を推進する取組み

##### ① 登校園管理システムを導入

園児の利用状況を管理することで、市への報告書作成や延長保育、一時預かり利用料の集金業務の効率化。

##### ② ICT 活用による業務改善

グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施、文書管理等のルール作り。

### 5. 経営基盤の強化

#### (1) 資金収支 10 か年を達成する取組み

建設に伴う費用の支払い計画に基いた経営管理の実施。

#### <数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入	職員数 (正規)	職員数 (パートタイム)
幼保連携型 認定こども園	2,400人	28,800人	132,021千円	23人 (兼2人)	8人 (兼2人)

# 令和 3 年度事業計画

足羽学園

## 実施事業

1. 福祉型障害児入所支援（定員 20 名）
2. 短期入所（定員 4 名）

## 中期事業計画（重点項目）

1. 子ども福祉部門間において、連携会議の場を設け、児童の交流機会の実施・強化
2. 関係機関との連携を図り成人移行期への準備推進
3. 専門研修への職員派遣（PECS2 名・自閉症 e サービス研修等）

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### （1）夢や幸せを実現するための取組み

- ① 児童福祉部門間の合同行事として「子どものアート展」や保護者や職員対象の「公開セミナー」の実施（打ち合わせ：年 3 回）
- ② 子ども達一人ひとりのストレングス（強み・良さ・成長しているところ）に視点をおいた、成長が感じられる実現可能な個別支援計画、チーム支援による支援の充実を図ると共に、記録に残す事で「成長の見える化」実施。
- ③ 未就学児の発達支援プログラムを確立し、就学に向けた支援の充実を図る
- ④ 高等部児童の青年期への円滑な移行に向けた生活プログラムの実施と各機関（出身市町村）との関係構築。
- ⑤ ユニット単位で活動・行事について企画・立案段階から子ども達の参画。
- ⑥ 子どもたちが自分達で出来るお手伝いをしたり、お互いに助け合ったりする中で、できた事に対して褒めたり認める支援を行い、自己肯定感・協調性の育成。

#### （2）安心、尊厳を守る取組み

- ① お便りや Web 面会等を活用し、子どもの成長を共に喜び、ご家族の悩みや不安に寄り添うファミリーサポートの実施。
- ② 挨拶、立ち居振る舞いに気を配り子ども達の手本となる接遇力の向上。
- ③ 社会的擁護（虐待等）を理由に入所された子どもの背景を理解し、家庭的な雰囲気のもと安心感を育みながら子どもの気持ちに寄り添った支援の推進。
- ④ 子どもたちと共にトヨタ式片付け術の活用した過ごしやすい環境づくりへの取組み。

- ⑥ ヒヤリハット、事故報告の分析を深め、対応方法について職員会議や事務連絡での情報共有、事故防止に向けた支援の実施。
- ⑦ 虐待防止委員会を毎月開催し、職員個々の業務の振り返りを行い、子ども達の権利が守られているかを主軸においた支援の充実及び予防策の徹底。
- ⑧ 当法人「新型コロナウイルス対策事業継続計画（BCP）」に基づくマニュアルの改訂をはじめとする感染症対策の取組み強化。
- ⑨ 火災・地震・土砂・防犯等非常事態に備えた訓練を計画的に実施し、危機管理体制の強化と意識の醸成（毎月）。
- ⑩ 新型コロナウイルス感染拡大阻止を図る為、クラスター発生想定訓練（年1回）の実施。

## 2. 地域と共に

### （1）社会とのより良い関係づくりを強化する取組み

- ① ブログを定期更新（各ユニット1回/月以上）、ミニミニ新聞（年3回）を活用した情報発信（アクセス件数6,800件数）。
- ② コロナ禍の中、「新しい生活様式」に基づいた交流の在り方を模索し、Web等を活用した出前講座や、酒生小学校支援学級及び4年生との福祉交流事業の実施。
- ③ 第13回サービス実践報告会やその他専門部会（児童発達支援部会等）においての活動発表の実施。
- ④ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じるこ  
とができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開  
催。

### （2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 社会的擁護が必要とされる緊急一時保護受け入れについて、各児童福祉相談所と連携し迅速な対応。
- ② 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ③ 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。
- ④ 足羽更生園を始め、法人内の障がい福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」の実施方法も含めて、協力して開催。

## 3. 職員と共に

### （1）目標を描き共に成長する取組み

- ① 職員の専門性を向上させるためPECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム：2名派遣）などの専門療法や自閉症eサービスなどの専門機関の研修への職員派遣（リモート研修含む）

- ② 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。
- ③ 各部署での支援技術動画を1事例作成し、支援の共有を図ると共に、法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うためのeラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。
- ④ 障がい福祉部門全体で連携して、サビ児管養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣及び職員研修。
- ⑤ SV（スーパーバイザー）研修を通してPDCAサイクルで取組み、障がい特性の理解や支援スキルの醸成を図り、共に成長しあう取組みの推進。

## (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 職員が十分にリフレッシュを図り、モチベーションアップにつながるよう、公休も含めた連続休暇（3連休）を達成しつつ次の4連休（全体の50%）取得を目指し、計画的付与促進。
- ② グッドネスやにこりホット、言葉の花束を通して、仕事に誇りを持ち意欲的に取り組める企画の実施（毎月）。
- ③ **就業奉行、勤怠クラウドを活用し、個々の業務量の適正化を進める（総超勤時間数の25%減：668時間減）。**

## (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 法人と連携して実習生やインターシップを受け入れ、施設が果たす役割や必要性、福祉の仕事の楽しみをPRし福祉人材の確保。
- ② 各世代のライフワークにあわせた働き方を提案し、支援補助としての子どもたちの生活サポーターの確保（2名）。

## 4. 実施プロセス

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 短期入所の事業において家族のレスパイト（休息）としての機能を担うことで、在宅で暮らす子どもたちをサポート。
- ② 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。
- ③ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和4年度末までに全員が受講（10名受講）。

### (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 外部委員（弁護士、家族代表、成年後見人）を招聘した虐待防止外部委員会を開催（年2回）し、外部の意見を伺いながらサービスの「見える化」の促進。
- ② 法人全体で取り組むグループウェアシステムの実用化に向けた決裁権限のルール作りとWeb決裁等導入への積極的な参画。

### (3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 福祉サービス第三者評価の受審結果の改善取組みを継続し、サービスの標準化・質の向上（検証：年2回）。

### (4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① 法人監事による管理職対象の財務会計勉強会の開催（年6回）。
- ② グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体ルール作り。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支10か年を達成する取組み

- ① 事業計画の進捗状況の確認と修正を定期的に遂行し、月次決算による予算管理の徹底（毎月）。
- ② 会計監査人による会計指導に基づき適正な財務管理。
- ③ 新報酬単価に基づく職員配置や各種加算の算定を行い、制度設計に沿った事業経営の推進。

### <数値目標>

事業	月間 延べ利用者数	年間 延べ利用者数	年間事業収入	職員数 (正規・シニアソシエイト)	職員数 (パートタイム)
入所 (措置及び契約)	510人	6,297人	121,119千円	19人	4人
短期入所	16人	192人	1,818千円		
計	526人	6,489人	122,937千円	19人	4人

# 令和3年度事業計画

あすわ児童発達支援センター

## 実施事業

1. 子ども発達支援センター フレンズあすわ
  - (1) 児童発達支援事業(定員 12名)
  - (2) 放課後等デイサービス事業(定員 10名)
  - (3) 保育所等訪問支援事業
  - (4) 短期入所事業(定員 5名)
  - (5) 児童発達支援センター機能強化事業 (福井市委託事業)
2. フレンズみゆき
  - (1) 放課後等デイサービス事業(定員 10名)
3. フレンズどれみ
  - (1) 放課後等デイサービス事業(定員 10名)

## 中期事業計画 (重点項目)

1. 児童福祉門間において、連携会議の場を設け、児童の交流機会の実施・強化
2. 福井市障がい児支援事業所連絡会の会員事業所同士が連動することで地域ニーズの詳細を把握
3. 新報酬改定にあった人員配置及びサービス提供体制(特に放デイ)を構築し、変更後も安定した事業運営の実施

## 事業推進計画

1. 利用者様と共に
  - (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み
    - ① こども福祉部門の合同行事として、「こどものアート展」や保護者や職員等対象の「公開セミナー」の実施。(打ち合わせ：年3回)
    - ② 定員増員した児童発達支援のクラス編成し、専門性の向上、及び医療的ケア児の支援プログラムの確立のため、保育士の勉強会の実施。
    - ③ 「本人らしさ」の形成時期となるよう放課後等デイサービス3事業所の個別支援計画の内容や作成方法の見直し。
    - ④ 児童発達支援センター機能強化事業(以下、機能強化事業)と連携し、保

護者支援・きょうだい支援の充実となるよう「with コロナ」の時代に合ったセミナー等の実施。(年 10 回)

- ⑤ 保護者のレスパイト支援のため、短期入所事業は法人内各拠点と連携しつつ、実施。
- ⑥ 利用者様の模範となるよう接遇の徹底。

## (2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業利用できるよう支援。
- ② 保育所等訪問支援事業での教育機関との連携強化。
- ③ チームで事例研究を取組み外部での発表の機会を創出。
- ④ 虐待防止委員会毎月開催による支援の振り返り、予防策の徹底。
- ⑤ 児童発達支援センターとして、行政や関係機関とのネットワーク作りにおいて当事業所の強みを伝え、外部からの信頼を獲得。

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのよりよい関係作りを強化する取組み

- ① 福井県こども療育センターや福井市健康管理センターとの連携を強化し、地域で子どもを支える体制を構築。
- ② 福井市障がい児支援事業者連絡会(以下、事業所連絡会)の事務局として、発達支援における現状の共有と課題の協議検討を推進し、地域ニーズの見える化の実施。(年 4 回)

### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、実習・ボランティアの積極的に受け入れ(実習生 25 名/年、ボランティア 100 名/年、視察説明 50 名/年)
- ③ ランナー、ボランティア、地域など関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第 9 回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。
- ④ 足羽更生園を始め、法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー令和 3」の実施方法も含めて、協力して開催。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。
- ② 新型コロナの感染状況を注視しながら、将来の人材確保の機会となるようフレンズどれみを中心に学生ボランティアやアルバイトを積極的に招集。
- ③ 障がい者福祉部門と連携しながら計画的に児童発達支援管理責任者等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。

- ④ 職員の専門性を向上させるためポータープログラムや PECS などの専門療法や自閉症 e サービス@ふくいなどの専門機関の研修への派遣（リモート研修を含む）や日々の実践のまとめを外部機関にて発表。

## （2）安心して働ける健康経営の取組み

- ① 多様な働き方をサポートしつつ、キャリア形成となるよう、障がい福祉部門で連携しながら、eラーニング等を活用するためのプログラムの選定や実施方法の検討。
- ② パートタイム職員や中途採用職員・派遣職員の資質向上のための研修会を年 4 回実施。

## （3）共に働く人を呼び込む取組み

- ① 各職員が意欲的に法人事業に寄与できるよう、法人本部を中心に「あすわ ers」の精度を向上。

# 4. 実施プロセス(設備投資を含む)

## （1）法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。
- ② 障がい福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討
- ③ 法人職員として、「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年度末までに全員が受講。

## （2）透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 事業所運営におけるさまざまなリスク（事故、苦情、災害、感染症、不審者等）に適切に対処できるようマニュアルの整備および対応訓練の実施。
- ② 会計監査人導入に伴い、内部監査体制、監事による定期的な監査を受け、月次決算による経営状況の進捗管理を適切に行いながら、適切な財務管理を維持。

## （3）外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 今年度もアンケートを実施し、前年度の児童発達支援事業や放課後等デイサービス事業のガイドラインに基づく自己評価結果を改善した上で、その結果を公表し PDCA サイクルを定着。
- ② 保護者への案内や連絡等を可能な限り IT 化。

## （4）合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。
- ② **ファイルメーカーの個別支援記録システムの活用と ICT 機器を使用した業務改善の推進。**
- ③ 障がい者福祉部門の連携会議を通して、連携強化および業務管理体制の維持向上の継続実施。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① 新たに改正された各事業の報酬体系を最大限に生かすことができるような職員配置や各種加算を取得することで経営を安定化させ、継続可能な事業として基盤整備を実施。
- ② 様々な児童発達支援のニーズ（高機能自閉症等クラスの増設や医ケア児の受け入れ体制の強化）に沿うことで、稼働率を安定・向上。
- ③ 借入金返済及び賞与資金積み立てを計画的に実施。
- ④ **フレンズみゆきの経営改善に向けて課題の抽出と解決に向けた取組みの計画的実施。**

### <数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	稼働率	年間事業収入(千円)	正規職員数	職員数 (パート&派遣)
子ども発達支援センターフレンズあすわ						
児童発達支援	240人	2,889人	84.47%	41,938千円	7人(±0)	5人(+1)
放課後等デイサービス	285人	3,427人	98.96%	38,664千円	5人(+1)	2人(±0)
保育所等訪問支援	20人	240人		4,508千円	1人(±0)	1人(±0)
短期入所	18人	216人		2,343千円	0人(±0)	0人(±0)
機能強化事業				6,000千円	1人(±0)	0人(±0)
フレンズみゆき						
放課後等デイサービス	231人	2,780人	87.17%	30,856千円	4人(±0)	2人(±0)
フレンズどれみ						
放課後等デイサービス	229人	2,748人	102.37%	29,367千円	4人(±0)	1人(±0)
計					22人(+1)	11人(+1)

# 令和 3 年度事業計画

足羽ワークセンター

## 実施事業

1. 就労移行支援 (定員 10 名)
2. 就労継続支援 B 型 (定員 30 名)

## 中期事業計画 (重点項目)

1. ICT 活用による会議時間や記録時間の短縮化および職員の負担軽減 (残業、紙の使用量 50% 減)
2. 就労支援 B 型事業における飲食、清掃、介護補助それぞれのコースの業務確立 (目標工賃 30,000 円以上)
3. 就労移行支援事業における就職実績 3 年間で 10 名

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現する取組み

- ① 「私らしく働く」ことを支えるための個別支援計画、チーム支援による支援の充実、事例検討。
- ② 利用者様の模範となるよう接遇の徹底。
- ③ 一般就職された利用者様の活動「あすわフレンズの会」イベント 2 回実施。
- ④ ○展 2021 への出品に向けた創作活動の支援。

#### (2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 虐待防止委員会毎月開催による支援の振り返り、予防策の徹底。
- ② 事業所運営におけるさまざまなリスク (事故、苦情、災害、感染症、不審者等) に適切に対処できるようマニュアルの整備および対応訓練の実施。
- ③ 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援。

### 2. 地域と共に

#### (1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 配食サービス、弁当販売、オリジナル健康食品等、地域ニーズへの積的展開。
- ② ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第 9 回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

- ③ 県立図書館オープンスペースあすわの木の運営、また足羽川ふれあいマラソンをはじめ地域の様々なイベントへの出店を通じた、障がい理解の推進および地域にとって心地よい食や空間の提供。
- ④ 事業所の取組みを HP、SNS 等を活用して積極発信。インターネット注文、インターネット販売など、商品購入の利便向上の取組み。

## (2) 地域のために法人資源を活用する取組み。

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。
- ③ 障がい者福祉部門の連携による法人主催「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」開催への参画。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。
- ② 個人の成長意欲に応じた研修計画立案および参加支援。また他法人の取組み視察。障がい者福祉部門で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。
- ③ 法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うための e ラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 計画的な有給休暇取得の推進、業務改善を通しての超過勤務時間縮小化、クックチルの徹底活用による調理員の時差勤務の負担軽減化等、働きやすい職場づくりへの取組み。
- ② 何でも相談し合えるようコミュニケーションを重視し、社会保険労務士による巡回訪問相談を通しての労務課題の改善。

## 4. 実施プロセス

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① **就労継続支援 B 型事業・・・利用者様平均工賃 25,000 円以上実現。**
  - ・ 飲食業務・・・法人内他拠点と連携して統一した献立ソフト活用、徹底した原価管理、製造プロセスの改善等による給食事業の収支改善。外販事業の新たな販路獲得、オリジナル商品の開発。
  - ・ 清掃業務・・・嶋田病院、愛全園からの受託事業における業務取組みの改善。
  - ・ 介護補助業務・・・愛全園からの受託事業における業務取組みの改善。
- ② 就労移行支援事業・・・法人内外での就職者 3 名輩出および既就職者のアフターフォロー。障害種別にかかわらない就労移行支援による利用者様確保。

- ③ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。
- ④ 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成および実践。
- ⑤ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年度末までに全員が受講。

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 会計監査人監査による指摘事項に対して着実に改善することでのガバナンス強化。

(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 福井県版 HACCP 認証取得をめざし、リスク除去の工程確立のもとで安全な食品提供ができる衛生管理体制の構築。

(4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① **グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。バージョンアップ後の個別支援記録システムの徹底活用(モバイル化、音声認識機能活用)による記録時間の捻出や簡素化推進。**

## 5. 経営基盤の強化

(1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① **就労移行支援事業の展開方法を見直し、より短期間での就職実績、定着フォロー、利用者様確保の流れを確立。**
- ② 予算管理徹底、支出削減とコスト意識を強化し、月次決算による経営状況の把握を適切に行い、適正収益を確保。
  - ・水道光熱コスト・・・毎月の使用状況管理。
  - ・食材原価・・・原価率 46%以下に。
  - ・超過勤務時間・・・業務改善を行いながら 30%削減。

### <数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入(サービス)	年間事業収入(就労支援)	職員数(正規)	職員数(パートタイム)
就労移行支援	225 人	2,709 人	14,893 千円	1,452 千円	22 人	9 人
就労継続支援 B 型	632 人	7,585 人	60,546 千円	140,903 千円		

# 令和 3 年度事業計画

スマイル

## 実施事業

### 1. 生活介護（定員 30 名）

## 中期事業計画（重点項目）

1. ICT 活用により会議時間や記録時間の短縮化を進め、職員の残業時間の削減と業務の効率化を図る
2. 自閉症支援のプロを目指し、実践を通して自閉症や強度行動障害のある方が過ごせる環境づくりの実現
3. 重度障害者の日中活動場所確保に向けた積立

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### （1）夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① 社会体験活動(12 回)、研修旅行(1 回)、選択食(6 回)、自治会(12 回)、作業選択(随時)、創作活動(随時)による意思決定支援の充実。
- ② 利用者様のアセスメントの充実を図り「私らしく生きる」ための支援内容をチーム支援にて事例検討、実践。
- ③ 健康管理、歯科講習、感染症対策など利用者様勉強会の実施（年 6 回）
- ④ ○展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた創作活動の充実。
- ⑤ 満足度調査として利用者様アンケート、利用者様ご家族（後見人含む）アンケートを実施（年一回）。

#### （2）安心、尊厳を守る取組み

- ① 事業所にある全てのマニュアルの新規作成、更新、削除を進め、利用者様支援の質の向上に資するものに整備。
- ② 足羽更生園、あすわ地域生活支援センター、あすわ相談支援事業所リアン、その他関係機関と連携、システムを活用したケースカンファレンスを、年間 40 回実施（延回数）。
- ③ 虐待防止委員会（月 1 回）、虐待防止チェックリストの実施（年 2 回）。「虐待防止改善計画」を策定・実施。利用者様支援の悩みや疑問等をケース会議で随時検討。
- ④ 新型コロナウイルス感染防止策の徹底により、利用者様が安心、安全に利用できるよう支援。
- ⑤ 事業所運営におけるさまざまなリスク（サービス事故や苦情、災害、感染

症、職員の労務管理等)に適切に対処、業務マニュアルの整備および事業継続計画等(BCP)の見直しを行い、職場内ルールの明確化。

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる「第9回足羽川ふれあいマラソン」を安全配慮、柔軟な運営により開催。
- ② **事業所周辺の「花いっぱい運動」やイベント出店など交流活動を通して、障がい学習、障がい理解を目指した情報発信の実施(成和地区)。**
- ③ スマイルの取組みについてホームページや機関誌「愛道」を活用して情報発信(月2回以上)。
- ④ スマイルマット「AmuAmu(アムアム)」の商品名で販売、情報発信。

### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。
- ③ 新規利用者様獲得のため、特別支援学校や地域のニーズなど関係機関との連携により積極的に情報発信・収集を実施。
- ④ 障がい者福祉部門と連携し「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」開催に協力。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、ラダー、等級基準、バリューの各項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実践。
- ② 個々に応じた研修計画立案において障がい者福祉部門全体で連携、サービス管理責任者養成研修、強度行動障害支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣、受講および資格取得状況の管理。
- ③ **法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うためのeラーニング等を活用したプログラムの検討、パート・派遣職員向けの自閉症支援、接遇、リスクマネジメントなど勉強会の実施。**
- ④ 自閉症支援のプロ育成を目指し事業所内勉強会、全職員が所外研修を受講。

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① サービスの質向上や業務のスリム化、効率化を目指し、職員が何でも話し合い、企画提案、実行することを奨励、権限委譲や会議の持ち方を工夫。
- ② 労務管理において、社会保険労務士による巡回訪問、相談体制を継続、課題改善に取組み、職場環境の充実を図る。(ストレスチェックの実施やメンタルヘルス復帰推進)。
- ③ 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)と接遇の実施。

### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 計画的な有給休暇取得の推進、および育児休暇、介護休暇等の取得など、働きやすい職場環境の充実。ワークライフバランスに配慮し、残業、シフト業務、休憩時間等の業務改善を実施。
- ② 求人活動におけるプレインターンシップ制度の活用や採用メディア、ツールの検討、改善を通して、法人のサービスや育成、福利厚生等をアピールし、障がい者支援の専門性を重視した採用につながる実習受入れ。

## 4. 実施プロセス

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福祉社会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成、及び実践。
- ② 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障がい福祉サービス事業」の検討。
- ③ **重度障がい者等の受け入れを目指し、新たな生活介護事業所の立上げについて足羽更生園と協働で準備、実施。**
- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年度末までに全員受講。

### (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 会計監査人監査の結果を受け法人の内部統制ルールに基づき、透明性の高いマネジメント体制を目指す。

### (3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 令和 2 年度受審の福祉サービス第三者評価制度の結果に基づき PDCA サイクルの実施。

### (4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決済、ペーパーレスの実施に向けて権限移譲、文書決裁、供覧、保存等の具体的ルール作り。
- ② インカム活用継続による業務の効率化、残業の削減(前年度比 20%削減)。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① 安定運営を行うために定員の充足継続、活動の充実や支援体制に合わせた職員の適正配置を行い、財務基盤の安定を図る。
- ② 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極めを実施
- ③ 目標利用率 91%を目指し安定経営を図る。
- ④ 新たな生活介護事業所の開設に向けて、足羽更生園、カラフル、あすわ相談支援事業所リアンと連携して計画、立案に取り組み、開所に向けた資金積立 5,000 千円を行う。

### <数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入(サービス)	職員数(正規・シニアアソシエイト)	職員数(パートタイム)
生活介護	612 人	7,342 人	67,615 千円	7 人+兼務 1 人	5 人+兼務 1 人

\* 稼働率 91%、稼働延べ日数 269 日

# 令和3年度事業計画

カラフル

## 実施事業

### 1. 生活介護（定員30名）

## 中期事業計画（重点項目）

1. 高齢化への対応の充実、人材育成（介護分野との連携による技術取得）
2. 余暇支援（創作活動）の充実
3. ユニバーサルスポーツ（卓球バレー・ボッチャ）推進による障がい理解と地域交流

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取り組み

- ① 社会体験活動(12回)、研修旅行(1回)、選択食(6回)、自治会(12回)、作業選択(随時)、創作活動(随時)による意思決定支援の充実。
- ② 利用者様のアセスメントの充実を図り「私らしく生きる」ための支援内容をチーム支援にて実践、事例検討として実施。
- ③ **ユニバーサルスポーツ（ボッチャ、卓球バレー等）を活動に取り入れ、利用者様の健康維持増進、ソーシャルスキル向上を目指す。**
- ④ ○展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた創作活動の充実。
- ⑤ 満足度調査として利用者様アンケート、利用者様ご家族（後見人含む）アンケートを実施（年一回）。

#### (2) 安心、尊厳を守る取り組み

- ① 事業所にある全てのマニュアルの新規作成、更新、削除を進め、利用者様支援の質の向上に資するものに整備。
- ② 足羽更生園、あすわ地域生活支援センター、あすわ相談支援事業所リアン、他関係機関と連携、システムを活用したケースカンファレンスを年間40回（延回数）実施。
- ③ 虐待防止委員会（月1回）、虐待防止チェックリスト（年2回）実施。「虐待防止改善計画」の策定・実施、利用者様支援の悩みや疑問等をケース会議で随時検討。
- ④ **成年後見制度への理解、認知症への理解、介護技術の習得を進め、高齢利用者支援における専門性の向上を目指す。**
- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止策の徹底により、利用者様が安心、安全に利用できるよう支援。

- ⑥ 事業所運営におけるさまざまなリスク（サービス事故や苦情、災害、感染症、職員の労務管理等）に適切に対処、業務マニュアルの整備および事業継続計画等（BCP）の見直しを行い、職場内ルールの明確化。

## 2. 地域と共に

### （1）社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる「第9回足羽川ふれあいマラソン」を安全配慮、柔軟な運営により開催。
- ② 利用者様と共に地域の清掃奉仕、花壇の水やりを実施（月1回以上）。利用者様が余暇活動で作成した作品展示を実施（追分口駅舎、新保駅舎、福井銀行新保店など）。
- ③ ユニバーサルスポーツによる交流を通して、障がい学習、障がい理解を目指した情報発信（大東地区）。
- ④ カラフルの取組みについてホームページや機関誌「愛道」を活用して情報発信（月2回以上）。

### （2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。
- ③ 福井大東地域包括支援センターと連携して、地域公民館、民生委員、自治会との連絡等による地域活動等の情報収集、提供を実施。
- ④ 障がい者福祉部門と連携し「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」開催に協力。

## 3. 職員と共に

### （1）目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、ラダー、等級基準、バリューの各項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実践。
- ② **利用者様の支援の充実を目指し、高齢者福祉部門との連携による介護技術の習得、介護福祉士資格の令和4年度取得者1名の推進。**
- ③ 個々に応じた研修計画立案において障がい者福祉部門全体で連携、サービス管理責任者養成研修、強度行動障害支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣、受講および資格取得状況の管理。
- ④ 法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うためのeラーニング等を活用したプログラムの検討、パート・派遣職員向けの自閉症支援、接遇、リスクマネジメントなど勉強会の実施。

## (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① サービスの質向上や業務のスリム化、効率化を目指し、職員が何でも話し合い、企画提案、実行することを奨励、権限委譲や会議の持ち方を工夫。
- ② 労務管理において、社会保険労務士による巡回訪問、相談体制を継続、課題改善に取組み、職場環境の充実を図る。(ストレスチェックの実施やメンタルヘルス復帰推進)。
- ③ 5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) と接遇の実施。

## (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 計画的な有給休暇取得の推進、および育児休暇、介護休暇等の取得など、働きやすい職場環境の充実。ワークライフバランスに配慮し、残業、シフト業務、休憩時間等の業務改善を実施。
- ② 求人活動におけるプレインターンシップ制度の活用や採用メディア、ツールの検討、改善を通して、法人のサービスや育成、福利厚生等をアピールし、障がい者支援の専門性を重視した採用につながる実習受入れ。

## 4. 実施プロセス

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福社会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成、及び実践。
- ② 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障がい福祉サービス事業」の検討。
- ③ 生活介護事業の共生型サービスについて議論・検討。
- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和4年度末までに全員受講。

### (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 会計監査人監査の結果を受け法人の内部統制ルールに基づき、透明性の高いマネジメント体制を目指す。

### (3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 令和4年度受審予定の福祉サービス第三者評価制度に向け、令和元年度受審の福祉サービス第三者評価結果に基づき、質の向上に向けた取組みをPDCA サイクルで実施。

### (4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて権限移譲、文書決裁、供覧、保存等の具体的ルール作り。
- ② 業務の効率化、支援のスピード対応を目指したインカムの活用。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① 安定運営を行うために定員の充足継続、活動の充実や支援体制に合わせた

職員の適正配置を行い、財務基盤の安定を図る。

- ② 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極めを実施
- ③ 目標利用率 88%を目指し安定経営を図る。
- ④ 利用者様のニーズに合った新たな生活介護事業所の開設に向けて、足羽更生園、スマイル、あすわ相談支援事業所リアンと連携して計画、立案に取り組む。

### <数値目標>

事業	月間延べ 利用者数	年間延べ 利用者数	年間事業収入 (サービス)	職員数 (正規・シニア アソシエイト)	職員数 (パートタイム)
生活介護	593 人	7,108 人	67,551 千円	7 人+兼務 2 人	3 人+兼務 1 人

\* 稼働率 88%、稼働延べ日数 269 日

# 令和 3 年度事業計画

足羽サポートセンター

## 実施事業

1. 就労継続支援B型 (定員 30名)

## 中期事業計画 (重点項目)

1. 重度、高齢化してきた利用者様も安心・安全に作業活動ができるような環境整備
2. 施設外作業への取組み利用者 18 名を目指し、利用者様平均工賃 12,000 円以上の実現
3. 重度利用者様支援に必要な研修に参加して、職員のスキルアップ向上

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① 重度・高齢化してくる利用者様も安心して利用できるゆるやかな B 型事業所として活動できるよう、利用者様の体調管理を重点的に行いながらの個別支援。
- ② 「私らしく働く」ことを支えるための個別支援計画、チーム支援による支援の充実、事例検討。
- ③ 施設外就労作業を 18 名以上の利用者様が体験できるような支援体制。
- ④ 障がい者福祉部門と連携しての新規事業立ち上げ。
- ⑤ 新しい生活様式に合った方法で、社会参加活動として地域の資源を生かしながら体験する機会づくり。
- ⑥ 在宅利用者様に対して〇展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた創作活動の支援。

#### (2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 利用者様が活動する環境を安全、快適に整えるため 5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) の徹底。
- ② 接遇委員を中心に年 2 回の接遇研修を行い、基本となる笑顔と挨拶、適切な身だしなみ、言葉使いの徹底。
- ③ 毎月、虐待防止委員会を行い、支援の振り返り、予防策の徹底。
- ④ 利用者様の意見を聞き、働きやすく過ごしやすい事業所にするために毎月自治会の開催。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援。
- ⑥ 高齢者福祉部門の協力を得て、積極的な勉強会への参加。
- ⑦ 火災、水害、防犯等、非常事態に備えた訓練を計画的に実施し危機管理体制の強化。

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 事業所近隣の清掃奉仕活動を毎月1回実施し、町内行事にも積極的に参加。
- ② 事業所前にて集団登校をする子供さんに挨拶をして安全の見守り。
- ③ 利用者様と共に地域の公民館や、調剤薬局等に広報誌を配布し足羽福祉会の情報発信。
- ④ 事業所の取組みをホームページや「愛道」を活用して積極的な情報発信。
- ⑤ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。(実行委員として3名参加)

### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応を行い、理解や支援者の輪を広げ、福祉人材育成に貢献。
- ③ 足羽川ふれあいマラソンに実行委員として参加し、地域の方々と交流。
- ④ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」の実施方法も含めて協力して開催。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① **利用者様支援の充実を目指して、法人内研修、県内各研修への参加と関係機関とのケースカンファレンスの実施により職員のスキルアップを図る体制。**
- ② 前年度スタートした新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みとして進捗面談を月1回実施。
- ③ 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。
- ④ 法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うためのEラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。
- ⑤ 自閉症eサービス@ふくい専門研修に参加し専門知識の取得。

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 計画的な有給休暇取得の推進、業務改善を行い、働きやすい職場づくり。

- ② サービスの質の向上や業務のスリム化、効率化を目指して、職員が何でも話し合い、企画提案したことを実行できるよう推奨し、権限移譲や会議の持ち方を工夫。
- ③ 社会保険労務士による巡回相談、相談体制の課題改善に取組み職場環境の充実。

**(3) 共に働く人を呼び込む取組み**

- ① プレインターンシップ制度の活用や大学等の実習を受け入れ、採用メディア、ツールの検討などを通して、障がい福祉のやりがいや法人のサービスや福利厚生などをアピール。

**4. 実施プロセス**

**(1) 法人の価値を高める取組み**

- ① **利用者様の平均工賃を 12,000 円 以上にするため、事業所内での施設外作業取組み利用者数の増加。**
- ② 「足羽福祉社会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。
- ③ 特別支援学校からの卒業後の進路の相談状況を確認しながら、ゆるやかな就労継続支援 B 型事業所としての特色の確立。
- ④ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。
- ⑤ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年度末までに全員が受講。

**(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み**

- ① 公認会計士事務所による監査の指摘事項のうち、優先順位が高いものから改善。

**(3) 外部評価や認証制度を活用する取組み**

- ① 利用者様のご家族様に足羽サポートセンターの自己評価を年 1 回実施し、事業所活性化への取組み。

**(4) 合理化と効率化を推進する取組み**

- ① グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。

**5. 経営基盤の強化**

**(1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み**

- ① 稼働率 120% / 月を目標とし、安定運営。
- ② 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極め。
- ③ 予算管理の徹底、支出削減とコスト意識の強化。

**<数値目標>**

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	稼働 (/月)	年間事業収入 (サービス)	年間事業収入 (就労支援)	職員数 (正規・シニアアソシエイト)	職員数 (パートタイム)
就労継続支援 B 型	828.8 人	9,953 人	123%	73,861 千円	6,108 千円	10 人	0 人

# 令和 3 年度事業計画

パ ス テ ル

## 実施事業

1. 自立訓練（生活訓練）（定員 10 名）
2. 就労継続支援 B 型（定員 10 名）

## 中期事業計画（重点項目）

1. 関係機関との調整や定期的訪問を積極的に実施・連携強化(1 回以上/月)
2. 訪問型自立訓練サービスを促進し、2～3 人の利用者様の増・支援強化
3. 地域ニーズを把握し福井市からの発達障がい相談支援事業の受託検討

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

① **地域が求めているアウトリーチ型の訪問支援（生活支援、家族支援、在宅ワークなど）の実施。**

② 1 名の利用者に対して訪問型自立訓練を実施し将来に向けたより具体的な就労に向けた支援計画（就労継続支援 B 型、一般就労等）を作成し、実施。

③ 個性や強みに着目したストレングスの視点で、「その人らしさ・その人らしく生きる」（エンパワメント支援）を支える個別支援計画、チーム支援による支援の充実。

（事例研究としても実践）

④ ○展 2021 やアールブリュット展への出品に向けた、創作活動の支援。

#### (2) 安心、尊厳を守る取組み

① 利用者様の継続的・安定的な通所に向けた環境調整、職員のスキルアップを目指し、外部講師を招いた研修を 1 回/2 か月実施。

② 毎月 1 回虐待防止委員会を開催し、虐待防止チェックリストを年 2 回実施。

③ 新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援。

④ 事業所運営におけるさまざまなリスク（事故、苦情、災害、感染症、不審者等）に適切に対応できるようマニュアルの整備および対応訓練の実施。

⑤ 事故防止委員会ではヒヤリハットや事故の分析を進め、職員間での情報共有を徹底し、予防的対策を強化。

⑥ 接遇委員会を中心に年 1 回の接遇研修を行い、特にサービス業の基本となる笑顔と挨拶、適切な身だしなみの徹底を実施。

- ⑦ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底により、利用者様が活動される環境を安全・快適に整える。

## 2. 地域と共に

### （1）社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 事業所の取組み（利用者様の笑顔や職員の想い等）をホームページや機関誌「愛道」を活用して積極的に情報発信。
- ② **積極的に他事業所、特別支援学校等の教育機関、医療機関等を訪問して地域ニーズを聴取し反映・実行。**
- ③ 事業所近隣の奉仕活動を1回／月実施し、季節ごとの町内清掃活動にも協力参加。
- ④ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人が、ふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

### （2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② 新型コロナウイルス感染症防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。
- ③ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」の実施方法も含め検討し、開催に協力。

## 3. 職員と共に

### （1）目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。
- ② 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害支援者養成研修、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。
- ③ 法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うためのeラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。
- ④ スタッフ会議の中で、「職員の働きやすさ」について話し合い、利用者様支援、環境改善・組織の体質改革を実施。
- ⑤ サービスの質向上（外部研修参加、専門講師による助言など）や業務のスリム化、効率化による新たなサービスの展開を職員全体で共有し前進。
- ⑥ Webやeラーニングを通じて効率的な会議の実施や人材育成を計画的に行い、支援力の向上を目指す。

### （2）安心して働ける健康経営の取組み

- ① 有給休暇、育児休暇および介護休暇の取得推進を積極的に実行。
- ② ストレスチェックの実施や小規模多機能事業の利点を活かした意見交換な

ど、職員が安心して働き続けることができるよう支援体制・職場環境の充実促進。

### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① プレインターンシップ制度の活用や高校・大学・専門学校等の実習受入、採用メディア、ツール等を通して、障がい福祉のやりがいや支援の専門性を重視した採用。

## 4. 実施プロセス

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。
- ② 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成および実践。
- ③ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年度末までに全員が受講。
- ④ 障がいグループ連携会議を通して地域ニーズの把握、関係機関からの発達障がいに関する相談状況等を確認しながら、受入増・新たな事業展開（委託作業等）を促進。
- ⑤ **令和 3 年度の福井市障がい者相談支援体制の事業所再公募に向けて、地域ニーズを受けられる実績（受入、事業促進等）の積み上げと受託検討。**

### (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 公認会計士事務所による監査の指摘事項のうち優先順位の高いものから着実に実施。

### (3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 相談支援事業所、特別支援学校、他就労支援事業所、行政等からのニーズ確認や当事業所に求めるものを外部の目から伺う機会を持ち実施。

### (4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① ICT 活用による業務改善として、グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的なルール作り。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① 自立訓練（生活訓練）事業 60%、就労継続支援 B 型事業 100%の稼働率の達成。
- ② 予算管理徹底、支出削減とコスト意識を強化。
- ③ 月次決算による経営状況の把握を行い、収入、支出の適正な見極めを定期的実施。

### <数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	稼働率	年間事業収入（サービス）	年間事業収入（就労支援）	職員数（正規）
自立訓練(生活訓練)	140 人	1,680 人	62%	15,987 千円		10 人
就労継続支援 B 型	225 人	2,700 人	100%	21,540 千円	1,680 千円	(1人兼務)
計	365 人	4,380 人		37,527 千円	1,680 千円	

# 令和3年度事業計画

足羽更生園

## 実施事業

1. 障害者支援施設【入所支援事業・生活介護事業】（定員 60 名）
2. 短期入所（定員 4 名）
3. 日中一時支援（定員 5 名）

## 中期事業計画（重点項目）

1. 個々にあった支援プログラムの PDCA とマニュアルの視覚情報化
2. 重度障害者に特化した生活介護事業所開設検討・準備（他拠点連携）
3. 地域向け広報紙の定期発行及び福祉避難所の在り方等地域との関係づくり強化

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### （1）夢や幸せを実現するための取組み

- ① **利用者一人ひとりのストレングス（強み、力、良さ）に視点をおき、個々の実現可能な個別支援計画や記録様式見直しによる「成長が視える化」の実施**
- ② コロナ禍における「新しい生活様式」に基づいた支援と、生活スキルを意識した支援プログラムの実施。
- ③ 自治会等を通して、コロナ禍であっても出来る楽しみ探しを行い、利用者様が楽しめる余暇活動の立案・実施。
- ④ 健康維持を図るためのウォーキングや軽運動、口腔ケア等の実施。
- ⑤ ユニット毎に、1 事例を事例研究として掲げチームで取り組む事での支援力向上を推進すると共に、サービス実践報告会やその他の専門部会において発表の実施。

#### （2）安心、尊厳を守るサービス

- ① **「成長が視える化」をもとに「〇〇さんだより」を個別に作成・発行し、コロナ禍における家族の「不安を安心に繋げる」取組みの実施**
- ② 当法人「新型コロナウイルス対策事業持続計画（BCP）」に基づくマニュアルの改訂をはじめとする感染症対策の取組み強化。
- ③ 虐待防止委員会を毎月開催し、職員個々の業務の振り返りを行い、権利擁護に基づいた支援の充実及び予防策の徹底。
- ④ ヒヤリハット、事故報告の分析を深め、対応方法について職員会議や事務

連絡での情報共有、統一した支援の実施。

- ⑤ 「笑顔での対応」「自分だったらどう対応して欲しいか」という視点においた接遇力の向上の推進。
- ⑥ 高齢化（看取りを含む）を見据えた職員の支援力の向上を図るため、高齢福祉部門や他拠点との連携した勉強会への参画。
- ⑦ 利用者様が安心して医療行為を受けるための事前準備と医療機関との連携
- ⑧ 食に関する嗜好や個々のニーズに反映された安心・安全で楽しみな食事の提供。
- ⑨ 成年後見人制度利用についての説明やアドバイスを行うと共に、手続支援の実施。
- ⑩ トヨタ式片付け術の実践による安心・安全かつ快適な環境づくり（毎月1回）
- ⑪ 火災・地震・土砂・防犯等の非常事態に備えた訓練を計画的に実施し、危機管理体制の強化と意識の醸成（毎月）。
- ⑫ 新型コロナウイルス感染拡大阻止を図るため、クラスター発生想定訓練（年1回）の実施。

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのより良い関係づくりを強化する取組み

- ① ブログの定期更新（2回/月）・ミニミニ新聞（3回/年）の情報発信。
- ② 地元自治会（宿布・前波）との福祉避難所の在り方等地域との関係づくり強化にむけた協議開催（年2回）。
- ③ 障がい福祉部門、児童福祉部門の協力のもと、第3回目となる「〇展～えんてん令和3～」開催（令和3年12月22日～26日 福井市美術館にて開催。）
- ④ 新型コロナウイルス発生状況の状況を鑑みながら可能な限り、施設見学者、実習生等を受け入れ、社会福祉に携わる人材育成に協力すると共に、法人の理念を広げる機会の提供。
- ⑤ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人がふれあいを感じることができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② コロナ禍における地元の学校との交流（出前講座含む）方法の検討、実施。
- ③ 東部地区児童・民生委員の見学（Web）等を活用した地域ニーズの情報収集
- ④ 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。
- ⑤ 障がい者福祉部門の協力のもと、「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」及び「フォローアップセミナー」の開催。

### 3. 職員と共に

#### (1) 目標を描き共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。
- ② 各部署での支援技術動画を1事例作成し、支援の共有を図ると共に、法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うためのeラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。
- ③ SV（スーパーバイザー）研修を通して、PDCAサイクルで取組み、職員間で情報を共有化し、利用者様の成長と共に職員の支援力の向上。
- ④ 障がい福祉部門全体で連携して、サービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への事業運営に必要な研修への職員派遣及び職員研修。

#### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 職員が十分にリフレッシュを図り、モチベーションアップにつながるよう、公休も含めた連続休暇（3連休）を達成しつつ次の4連休取得（全体の25%）の計画的付与促進。
- ② グッドネスやにこりホット、言葉の花束を通して、仕事に誇りを持ち意欲的に取り組める企画の実施（毎月）。
- ③ 安全衛生委員会にて、職員のメンタルヘルス状況や各部署における環境衛生パトロールについて確認し対応を図る（毎月）。
- ④ 中途採用職員や派遣職員の資質向上のための研修会開催（年3回）。

#### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 法人と連携して実習生やインターシップを受け入れ、施設が果たす役割や必要性、福祉の仕事の楽しさをPRし福祉人材の確保。
- ② 地元を中心に「ちょこっと就労」を機関誌及びホームページ等でPRし、支援を補助する人材の確保。

### 4. 実施プロセスの明確化

#### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① **重度障がい者等の受け入れを目指し、新たな生活介護事業所の立上げについてスマイルと協働で準備、実施**
- ② カンタケ栽培については官公庁との連携を保持しつつ、障がい部門内での新たな生産事業を視野に入れた共同商品化に向けた検討、立案。
- ③ 「足羽福社会 SDGs 宣言」に沿って、203年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。
- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和4年度末までに全員が受講（今年度30名受講）。

- ⑤ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完しあう「将来の障害福祉サービス事業」の検討。

## (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 外部委員（弁護士、家族代表、成年後見人）を招聘した虐待防止外部委員会を開催（年2回）し、外部の意見を伺いながらサービスの「見える化」の促進。
- ② 法人全体で取り組むグループウェアシステムの実用化に向けた決裁権限のルール作りと Web 決裁等導入への積極的な参画。

## (3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 福祉サービス第三者評価の受審結果の改善取組みを継続し、サービスの標準化・質の向上（検証：年2回）。
- ② 調理システム「クックチル」を最大限活用した、安全かつスムーズな食事の提供に努め、HACCP 申請に必要な手続きを他拠点との連携。

## (4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① 法人監事による管理職対象の財務会計勉強会の開催（年6回）。
- ② グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的なルール作り。

# 5. 経営基盤の強化

## (1) 資金収支 10 か年を達成する取組み

- ① 事業計画の進捗状況の確認と修正を定期的に遂行し、月次決算による予算管理の徹底(毎月)。
- ② 会計監査人による会計指導に基づき適正な財務管理。
- ③ 新報酬単価に基づく職員配置や各種加算の算定を行い、制度設計に沿った事業経営の推進及び遅滞ない建築借入金の返済（長期 19,920 千円）。
- ④ 新規生活介護事業所開設に向けた建設積立金 7,000 千円醸成。
- ⑤ 今年度事業活動資金収支差額 50,000 千円の達成。

### <数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入	職員数 (正規・シニア ソシエイト)	職員数 (パートタイム)
施設入所支援事業	60 人	21,243 人	170,601 千円	58 人 (兼務 2)	11 人
生活介護事業	72 人	18,969 人	240,103 千円		
短期入所支援事業	40 人	480 人	1,960 千円		
日中一時支援事業	30 人	360 人	715 千円		
計	202 人	41,254 人	413,379 千円	58 人	11 人

# 令和 3 年度事業計画

あすわ相談支援事業所リアン

## 実施事業

1. 計画相談支援事業
2. 障害児相談支援事業
3. 地域相談支援(地域移行・地域定着)事業

## 中期事業計画（重点項目）

1. 質の高い相談支援によりすべてのニーズに対応することで本人の夢や希望の実現
2. 新規ニーズに応えながら、事業継続が可能な職員体制整備

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① **利用者様の夢や希望の実現や権利擁護の視点に立って、年間 1,200 件以上の計画作成、モニタリング、更新を維持。**
- ② チーム支援による支援の充実、事例検討。

#### (2) 安心、尊厳を守る取組み

- ① 利用者様が入所施設や長期入院などから地域移行した後も、定期的な訪問などにより安心して生活できるような支援体制の整備。
- ② 接遇委員を中心に年 2 回の接遇研修を行い、笑顔、挨拶、身だしなみ、言葉使いの徹底。
- ③ 利用者様の意見（希望や不服等）が出やすい環境を整えることによる意思決定支援の充実。
- ④ 虐待防止委員会開催による支援の振り返り、予防策の徹底。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援。
- ⑥ 火災、水害、防犯等、非常事態に備えた訓練を計画的に実施し、危機管理体制の強化。

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのよりよい関係作りを強化する取組み

- ① 災害時における在宅者の安否確認を、職員が適切に行えるよう福井大東包括支援センターに相談し体制強化。
- ② 福井市に対して障害福祉サービスや課題に対する積極的な意見提言。
- ③ 事業所の取組みをホームページや「愛道」の配布を活用して積極的に発信。
- ④ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができ第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じたボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応を行い、理解や支援の輪を広げ、福祉人材育成に貢献。
- ③ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」の実施方法も含めて協力して開催。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① **専門性向上に対する職員の学習意欲を尊重し、外部専門研修への積極的な参加。**
- ② 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みとして進捗面談を月1回実施。
- ③ 法人内の高齢者福祉部門との合同会議を通して、高齡障がい者支援の連携強化。
- ④ **法人内障害者福祉部門全体で相談支援専門員養成を計画的に育成。**
- ⑤ 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣および職員研修。
- ⑥ 法人本部と連携し、障害者福祉の専門教育を効率的に行うためのeラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画の活用。

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① サービスの質の向上や業務のスリム化、効率化を目指し、職員が何でも話し合い、企画提案したことを実行できるよう推奨し、権限移譲や会議の持ち方を工夫。
- ② 計画的な有給休暇取得の推進を図り、職員全員の7日間連続休暇取得を行い、業務改善を通して働きやすい職場づくり。

### (3) 共に働く人呼び込む取組み

- ① 関連団体における事例発表の積極的な発信により、事業所の強みを伝え外部からの信頼獲得。

## 4. 実施プロセス

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 「足羽福祉会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。
- ② 地域のニーズ、サービス提供状況等を法人内に発信し法人の事業運営に貢献。
- ③ 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。
- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年度末までに全員が受講。

### (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 公認会計士事務所による監査指摘事項のうち、優先順位が高いものから改善。

### (3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 利用者様のご家族様向けにあすわ相談支援事業所リアンの自己評価を年 1 回実施。

### (4) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① 法人内他拠点からの繰り入れについて、資金繰り表をもとに資金管理を徹底。
- ② 月次決算による経営状況の進捗管理を適切に行いながら、適切な財務管理を維持。

### <令和 3 年度サービス実施計画>

事業者名	契約者数	年間延べ利用者数 (作成数)	年間事業収入	職員数 (正規・シニアシフト)	職員数 (パートタイム)
計画相談支援事業	320 人	850 人	17,537 千円	7 人 (2 名兼務)	1 人
障害児相談支援事業	130 人	250 人	5,843 千円		
地域移行支援・定着支援事業	5 人	24 人	543 千円		

# 令和3年度事業計画

あすわ地域生活支援センター（あすわ第1・第2・第3）

## 実施事業

1. 共同生活援助事業（グループホーム）・・・3事業所(138名)
2. 短期入所事業・・・2事業所(6名) ※3事業所（8名）

## 中期事業計画（重点項目）

1. ○展2021の開催に向けての作品づくり
2. 医療機関との連携と健康維持
3. たんぽぽの少人数化とひまわりの老朽化対策検討

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### （1）夢や幸せを実現するための取組み

- ① ○展2021やアールブリュット展への出品に向けた、創作活動の支援。
- ② 支援計画策定会議やケース会議では本人中心の視点を徹底し、チームで取り組む。
- ③ 利用者様と共に家庭的な食事・おやつ作り月2回以上実施。
- ④ 自立への意向調査を行い、自立生活（男性1名、女性1名）を支援。
- ⑤ 自治会と、いいところ探しのための「ほめ言葉のシャワー」の取組みを定期的実施。（月1回）

#### （2）安心、尊厳を守る取組み

- ① **クーポン検診活用及び健康診断結果を踏まえ、早期発見早期治療を医療機関と連携し実施。健康を維持する活動推進。誤薬ゼロを目標として、投薬支援の研修実施。**
- ② 地域で安心して生活を送るための勉強会（交通安全・ネットスマホ被害・権利侵害・感染予防）を開催。（年4回）
- ③ 虐待防止委員会、職員会議での虐待研修毎月開催による支援の振り返り、予防策の徹底。
- ④ 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底により、利用者様が安心して事業所利用できるよう支援。
- ⑤ 女性グループホームに防犯カメラの設置。（4か所）
- ⑥ 成年後見制度の活用促進。（5件以上）
- ⑦ アフターフォロー体制（関係機関把握など）を整備。
- ⑧ 年2回の火災避難訓練のほか水害、地震、不審者対応訓練の実施。および防災の日(9/1)に非常食、備蓄品を使つての防災体験実施。

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのよりよい関係作りを強化する取組み

#### ① 足羽川ふれあいマラソンの開催

ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じる事ができる第9回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

#### ② 「新しい生活様式」を学びながら、地区の住民として清掃活動、除雪等に協力し、地域の社会資源を安全に利用できるように支援。

### (2) 地域の為に法人資源を活用する取組み

#### ① 生活困窮者支援の取組み

生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。

#### ② ボランティア等受入れ

新型コロナウイルス感染防止対策の状況に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。

#### ③ 在宅生活の継続に向けてケース会議に参加し、積極的な短期入所受け入れ実施。新たんぽぽにおいて、短期入所事業所（2名）を開始。

#### ④ 法人内の障がい者福祉部門と連携し、「福井県自閉症支援者養成セミナー令和3」の実施方法も含め検討し、開催に協力。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、ともに成長する取組み

#### ① 障がい者福祉部門全体で連携してのサービス管理責任者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修等、制度上必要な研修への職員派遣及び職員研修。

#### ② 法人本部と連携し、障がい者福祉の専門教育を効率的に行うためのeラーニングプログラム検討。各拠点での研修動画活用。

#### ③ 支援者研修を年5回（接遇、権利擁護、感染症対策、リスマネ、意思決定支援）実施。

#### ④ 処遇困難事例のスーパーバイズ研修受講。中間報告、年度末報告を職員会議で行い支援力向上を図る。

#### ⑤ あすわers 定着への取組み

前年度スタートした新人事管理制度『あすわers』の理解を深め、ラダー、等級、基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

#### ① 計画的有給休暇や連続休暇取得の推進。（全員が5日連続休暇）

#### ② 相談しやすい体制作りの為、月に一度の上司と面接する機会確保。

#### ③ 除雪車の免許取得(2名)。中型除雪機の購入。

### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

#### ① グループホームのある地域での積極的なパートタイム職員確保。支援の充実に向け、あすわ第2の世話人比率5:1達成。

## 4. 実施プロセス

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 共同生活住居たんぽぽの少人数化の実現に向けてグループホームを建設。
- ② 障がい者福祉部門での協議を通して、各拠点の活動が補完し合う「将来の障害福祉サービス事業」の検討。
- ③ SDGs の取組み  
足羽福祉会 SDGs 宣言に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。
- ④ 法人職員として「認知症サポーター養成研修」を令和 4 年までに全員が受講。

### (2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 外部委員として専門家や家族を招いた虐待防止委員会の開催。
- ② 事業所運営における様々なリスク(事故、苦情、災害、感染症、不審者等)に適切に対応できるようマニュアルの整備及び対応訓練の実施。

### (3) 外部評価や認証制度を活用する取組み

- ① 福祉サービス第三者評価受審（あすわ第 2）。

### (4) 合理化と効率化を推進する取組み。

- ① ICT 活用による業務改善  
グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限委譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルールづくり。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年を達成する取組み

- ① 月次決算経営状況の進捗管理を行いながら、適切な財務管理を維持。
- ② あすわ第 2 の世話人比率 5 : 1 による増収。
- ③ あすわ第 3 ひまわりの老朽化に伴う改修積み立てを実施。

### <令和 3 年度サービス実施計画案>

事業所名	共同生活住居	定員	月利用者数	年利用者数	年間事業収入	職(正)	職(パ)
あすわ第 1	12 (4 か所)	37 人	1,076 人	12,944 人	64,684 千円	8 人	13 人
あすわ第 2	8 (8 か所)	62 人	1,795 人	21,582 人	159,819 千円	17 人	24 人
あすわ第 3	6 (4 か所)	39 人	1,111 人	13,369 人	82,917 千円	9 人	16 人
共同生活援助 計		138 人	3,982 人	47,895 人	307,421 千円	34 人	53 人
あすわ短期入所		4 人	50 人	600 人	3,256 千円		
ひまわり短期入所		2 人	30 人	360 人	1,289 千円		
短期入所 計		6 人	80 人	960 人	4,546 千円		
合 計		144 人	4,062 人	47,837 人	311,967 千円	34 人	53 人

共同生活援助事業所 3 事業所 定員 138 人 (男性 93 人 女性 45 人)

共同生活住居 26 か所 (一体化で見る単位としては、17 か所)

短期入所事業 2 事業所 男性 3 人、女性 1 人+2 人

※新たんぽぽが開所した時に、たんぽぽ短期入所 (2 人) を加え、3 事業所 8 人

# 令和 3 年度事業計画

愛 全 園

## 実施事業

1. ユニット型介護老人福祉施設（定員 60 名）
2. 従来型介護老人福祉施設（定員 30 名）
3. （介護予防）通所介護（定員 25 名）
4. 福井市介護予防・日常生活支援総合事業における通所 A 型
5. （介護予防）短期入所生活介護（定員 35 名）
6. 地域密着認知症対応型共同生活介護（定員 9 名）
7. 居宅介護支援
8. 地域支援事業

## 重点事業計画

1. 事業所内で 8 事例のテーマを掲げ、専門家のアドバイスを基に「その人らしさ」「その人のできること探し」が出来る支援の研究実践。
2. 科学的介護の実践を基に、根拠に基づいたサービス提供から評価への PDCA サイクル実践。（LIFE への情報提供～ケアの効果実感）
3. 足羽利生苑改修工事に向け、改修工事策定プロジェクトチームを立ち上げ、高齢分野の在り方検討を含め、全拠点一丸となった検討。

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

- ① 新型コロナウイルス感染症に関する新たな情報を取り入れ、遅滞ないワクチン接種と徹底した感染対策の強化。
- ② 事業所内で 8 事例(ユニット型 3 事例・従来型・ショートステイ・デイサービス・GH・居宅介護支援)のテーマを掲げ、専門家のアドバイスを基に「その人らしさ」「その人のできること探し」ができる支援の研究実践。また、部門内での事例発表と、事業所間で研鑽ができる機会の取組み。

#### (2) 安心・尊厳を守る取組み

- ① 自施設及び各拠点での現状および振り返りの共有から、利用者様の尊厳を守る意識を高め、取組みの実施。(虐待防止の取組み)
- ② 健康で安心できる日常生活を確保するため(理念と実践)、これまでの科学

**的介護の実践を基に、根拠に基づいたサービス提供から評価への PDCA サイクル実践。（ご利用者様が何を求めているかを意識した効果的なケアの提供）**

- ③ 利用者様が納得安心して暮らせる支援サービスの標準化。職員の技術および 優しさ、思いやりの向上と定着。（アセスメント～計画～サービス提供～評価）（サービスの標準化、職員の技術、優しさの追求）
- ④ 職員の「言葉遣い・挨拶・身嗜み・笑顔・環境整備」全てにおいて、『丁寧』を意識した取組み実施。
- ⑤ トヨタ式 5S（研修）の取組みから業務改善（ケア、環境）を推進。
- ⑥ 令和 3 年度第三者評価受審に向けて、人権・権利擁護の取組み改善と、利用者様が安心できる生活基盤の確立。

## 2. 地域と共に

### （1）社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 地域関係機関と情報共有・連携体制の検討と、コロナ禍での新たな地域ニーズに応える憩いのサロンの準備・実施。
- ② 地域の一員として責任・役割を担った地域貢献。
- ③ ランナー、ボランティア、地域等、関わる全ての人々がふれあいを感じることができる第 9 回足羽川ふれあいマラソンを安全配慮、柔軟な運営により開催。

### （2）地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 福祉避難所として地域関係機関と連携を持った環境整備。また高齢者支援分野連携した関連マニュアル統一。
- ② 生活困窮者支援における法人内連携および中間的就労の場の提供。
- ③ 職員一人一人が地域で認知症サポーターとして活躍できる機会の把握と実践。
- ④ 新型コロナウイルス感染症防止対策に応じた、ボランティア、実習、施設見学ニーズへの対応。また、これまでのボランティアとの関係継続と、これからのボランティアの在り方、取組みの検討実践。（ボランティア養成講座）

## 3. 職員と共に

### （1）目標を描き、共に成長する取組み

- ① **前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー、等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。コミュニケーション・OJT を通じ、全職員のあすわ ers への理解を深め、一人ひとりが協力して目標を認識・達成できる体制作り。**
- ② 高齢部門課長連携会議による職務分掌の検討統一と PDCA の実践。
- ③ 段階的・専門別研修の実施方法の検討を行い、全ての職員が必要とする研修に参加できる職場研修体制の構築。
- ④ 高齢者支援部門の連携会議を定期的で開催。目的を持って PDCA をまわし

た内部研修レベルアップ運営。

## (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 移動リフト、パワードスーツ HAL、他の介護機器活用を促進し、職員健康管理の向上。(安心して働ける職場づくり)
- ② 有給休暇取得率向上と3連休が計画的にクリア出来るよう取得促進の徹底と、職員のワークライフバランスに配慮。
- ③ 衛生委員会において、職員の就業状況や意向の把握、時間外労働の定期的チェック等、労務管理相談体制の充実を図り、職場の様々な課題改善に努め、OBC 勤怠システムの全職員への理解実践を徹底。

## (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 支援が過密となる時間帯や間接業務・夜間業務に多様な人材やボランティアなどを積極的活用・登用し、専門職が本来の専門性を活かせる職場環境の整備。
- ② 新任・中途採用職員教育等、諸問題解決に向けたテーマを掲げ、解決方策を検討、サービスの質向上、業務のスリム化、効率化に資する取組みの実践。

## 4. 実施プロセスの明確化

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 足羽利生苑改修工事に向け、改修工事策定プロジェクトチームを立ち上げ、高齢分野の在り方検討を含め、全拠点一丸となった検討。
- ② 「足羽福社会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。

### (2) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① 業務効率化への ICT 機器の積極的導入。ナースコールの整備に関する、介護記録や見守りセンサー等と連携する新たな環境整備。
- ② グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作り。
- ③ 高齢者支援部門での連携会議を通し、介護記録システムの見直しと活用を検討し、介護記録の省力化や情報共有(職員間・家族間・事業所間)に繋げる。

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 法人収支 10 か年計画を達成する取組み

- ① 法人 10 か年収支計画の計画的な履行のため、収入、支出額に関する具体的な目標数値設定と、毎月の管理者会議に於いて対応対策の実施。
- ② 建設より 10 年が経過し、建物保全への計画的な資金積立。

### (2) 情報公開

- ① 事業所内情報の発信として月間 3 回(年間 36 回) HP ブログ更新及び Facebook 等の活用。
- ② 事業所内魅力をご家族・地域社会・実習生などに発信するため、HP 更新及び事業所 PR 動画作成。

<数値目標>

事業	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入 (サービス)	職員数 (正規) (シニアアソシエイト)	職員数 (パートタイム) (派遣職員)
介護老人福祉施設 (ユニット型)	1,825 人	21,900 人	328,025 千円		
介護老人福祉施設 (従来型)	913 人	10,950 人	150,678 千円	管理職 5 人 監督職 13 人 一般職 (介護職) 44 人 (相談支援職) 11 人 (看護職) 5 人 (事務職) 2 人 (栄養職) 1 人 (調理職) 5 人 (業務支援職) 3 人	管理職 0 人 監督職 0 人 一般職 (介護職) 12 人 (相談支援職) 1 人 (看護職) 9 人 (事務職) 1 人 (栄養職) 0 人 (調理職) 2 人 (業務支援職) 3 人
短期入所生活介護 (介護予防)	883 人	10,585 人	132,732 千円		
通所介護・通所 A 型 (介護予防)	438 人	5,253 人	39,690 千円		
認知症対応型 共同生活介護	274 人	3,285 人	47,172 千円		
居宅介護支援	170 人	2,040 人	30,103 千円		
地域支援					
計	4,503 人	54,013 人	728,400 千円	合計 89 人	合計 28 人

# 令和3年度事業計画

足羽利生苑

## 実施事業

1. 介護老人福祉施設	定員 59名
2. 地域密着型介護老人福祉施設	定員 18名
3. (介護予防) 短期入所生活介護	定員 15名
4. (介護予防) 通所介護	定員 20名
5. 福井市介護予防・日常生活支援総合事業における通所型A型	定員 10名
6. (介護予防) 認知症対応型通所介護	定員 12名
7. 居宅介護支援	定員 105名
8. 地域支援事業	

## 中期事業計画（重点項目）

1. 部門内でアドバイザーを専任し、半期毎の事例報告会に於いてアドバイスを受け、支援に繋げる
2. ACP（アドバンスケアプランニング）の浸透
3. 足羽利生苑改修計画に向けた策定及び高齢者福祉部門の在り方の検討

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

#### (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

～実践事例の積上げ及び法人サービス実践発表への対応

① 認知症介護を支えるパーソンセンタード・ケアの理念を実践事例での充実。

② 介護力向上と繋がるACPの理念実現に向けた実践事例での充実。

・ 宅介護支援「私の想いをつなぐノート（意思確認書）」31名様からの上乗せ

・ 通所介護5名様からの上乗せ、短期入所利用者様へのノート導入実現

・ 特養、一時帰宅利用者様事例4名様から令和4年度目標10名様に

#### (2) 安心、尊厳を守る取組み

① 新型コロナをはじめとする感染症や自然災害への対応力強化。

・ 感染症標準対策徹底、利用者様の面会環境の充実

・ 降雪時、停電時、備蓄対応等経験値から学ぶ

② 接遇の一層のレベルアップ「笑顔と立ち止まったの挨拶」の定着

- ③ 高齢者虐待防止について、高齢者福祉部門でのリスク管理継続共有
- ④ 前回結果を踏まえたPDCAサイクル視点での第三者評価の受審

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのより良い環境づくりを強化する取組み

- ① 地域共生社会構築に向けた「地域支援事業」の強化。
  - ・個人、地域のお困りごと等生活課題を把握し、法人資源活用につなげる
- ② SDGs 法人宣言の理解を深め、具体的行動目標計画の作成及び実践。

### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 地域及び法人資源を有機的につなげる「チームR」の機能強化。
  - ・「いこ憩サロン」の地域内展開の在り方検討、実施、
- ② 福祉避難所の機能（現状）と酒生地区自主防災組織連絡協議会の役割についての相互理解を深める。
- ③ 生活困窮者支援における法人内連携での情報収集及び中間的就労の場の提供。
- ④ 認知症サポーター養成講座の展開（実施方法検討）。
  - ～大東包括支援センターとの連携で企画、促進～
  - ・家庭での介護者層（60歳前後対象）への理解啓発
  - ・小中学校向け（1校）への認知症理解、介護職の仕事啓発
  - ・法人内障がい者福祉部門職員向け養成講座の実施
- ⑤ 第9回足羽川ふれあいマラソンを新型コロナウイルス防止対策での安全配慮、柔軟な運営に向け、拠点上げて参画。
- ⑥ ボランティア等受け入れは新型コロナウイルス防止対策の状況に応じた法人方針に基づいたニーズ対応。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 「あすわers」の初年度の経験を踏まえた円滑運用への制度理解を深める。
- ② 業務プロセス改善に係るチーム運営の継続強化。
  - ・研修受講前後のフォローアップの充実
  - ・全体会議の運営、情報共有、モチベーションアップの課題解決の実行手段としての3S活動定着も質向上への改善
- ③ 在宅関係職種間で、障害、介護の相談支援業務の資質向上に向けた定例会の実施。

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 高齢福祉部門における専門職業務分掌の統一、やりがいにつながる業務明確化と実践。
- ② 有給休暇取得率31%以上の上乗せ向上。3連休が段階的・計画的にクリアできるよう取得推進とワークライフバランスに配慮します。
- ③ 安全衛生委員会が担う機能充実。

- ・安全な職場環境、時間外労働の定期的チェック等労務管理相談体制の充実
- ・社会保険労務士による巡回指導への適切対応
- ・ストレスチェック実施率 72%からの上乗せ向上
- ④ 高齢者福祉部門マネージャー級の定期連携会議（(2 か月に 1 回) 継続開催。
  - ・諸課題解決への統一テーマに係る解決方策・実施
  - ・事業計画達成度に資する提案、提言

### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

～愛全園との協働開発で働く人を呼び込む仕組みの開発～

- ① HP で法人・施設の特色・介護の仕事の魅力と働く人を呼び込む為、映像で繋ぐプレゼン資料の制作活用。
  - ・実習生を含めた求職者向けの採用・見学プログラムの作成、活用
- ② E P A のマッチングに伴う受け入れ準備態勢の整備。
- ③ 留学生受け入れに係る学校法人との情報収集による現況把握を継続。
- ④ 専門職の専門性、働き方を補助する生活サポーター確保に向け、各世代のライフワークに合わせた働き方の提案登用。

## 4. 実施プロセスの明確化

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 足羽利生苑改修計画に係る高齢者福祉部門チームでの構想を積み上げ。
  - ・SDGs 法人宣言にリンクした視点での情報収集
  - ・施設の特色・役割等包括的に鑑みた検討会議の定期開催
- ② 居住環境の改善。
  - ・居室、トイレの一部改修実施

### (2) 合理化と効率化を推進する取組み

- ① 介護ロボット、タブレット端末等を活用する効率的業務運営による介護現場改革。
  - ・移乗用リフト等既存導入機器の定着、介護動作補助機器の検討、タブレット端末の適切な設置
- ② ICT 活用。
  - ・グループウェアを活用した電子決裁等権限移譲、保存等具体的ルールの理解浸透
  - ・会議資料、グラフや統計資料のデータ蓄積「見える化」の促進
  - ・ペーパーレスの実施に向けた経費削減管理の徹底によるコピー紙使用の削減率 10%以上を上乗せ向上

## 5. 経営基盤の強化

### (1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み。

- ① 介護報酬改定に適切に対応
  - ・L I F E へのデータ提出とフィードバックの一体運用による科学的介護推進
  - ・体制加算をはじめとした新設加算、既存加算の計画的算定

- ② 当初予算必達の徹底管理…責任者会議での施設現況の理解促進
- ③ 介護用品、備品等のコストダウンと費用対効果視点での業務執行の強化
- ④ 目的性のある積立資金を計画的に計上

### <数値目標>

事業所名	月間延べ利用者数	年間延べ利用者数	年間事業収入 (サービス)	職員数 (正規) (シニアアソシエイト)	職員数 (パートタイム) (派遣職員)
介護老人福祉施設	1,818 人	21,820 人	271,516 千円	管理職 4 人 監督職 11 人	管理職 0 人 監督職 0 人
地域密着型 介護老人福祉施設	531 人	6,372 人	98,461 千円	一般職 (介護職) 33 人	一般職 (介護職) 16 人
短期入所生活介護 (介護予防含)	335 人	4,015 人	35,520 千円	(相談支援職) 5 人 (看護・機能訓練職) 5 人	(相談支援職) 0 人 (看護・機能訓練職) 5 人
通所介護 通所型A型 (介護予防)	405 人	4,867 人	43,617 千円	(事務職) 1 人 (栄養職) 1 人 (業務支援職) 3 人	(事務職) 0 人 (栄養職) 0 人 (業務支援職) 3 人
認知症対応型 通所介護 (介護予防)	168 人	2,015 人	25,663 千円		
居宅介護支援	100 人	1,200 人	19,779 千円		
計	3,347 人	40,289 人	494,556 千円	63 人	24 人

# 令和 3 年度事業計画

グループホーム美山

## 実施事業

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 1. 認知症対応型共同生活介護（介護予防含む） | 定員 9 名  |
| 短期利用型共同生活介護             | 定員 1 名  |
| 2. 小規模多機能型居宅介護（介護予防含む）  | 定員 29 名 |

## 中期事業計画（重点項目）

3. 利用者様の安心・尊厳を守り、その思いをつなげる自立支援介護の実現
4. 半期毎の事例報告会においてアドバイスを受けた支援体制の構築
5. 地域共生社会の実現に向けた地域生活課題への対応促進
6. あすわ ers に基づいた人財育成
7. 足羽利生苑改修計画の検討

## 事業推進計画

### 1. 利用者様と共に

(1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

#### ① 利用者様中心のケア推進。

・ パーソンセンタードケア（サービス提供指針）の推進

#### ② 自立支援・重度化防止。

・ 科学的介護の浸透と全利用者様に着実な実践

・ 科学的介護推進体制加算取得

（認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護）

#### ③ 最期まで支えるケア体制の確立。

・ 看取りケア介護の継続

#### ④ 事業所内 2 事例の研究。

・ 認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護…各 1 事例

(2) 安心・尊厳を守る取組み

#### ① 高齢者虐待防止の取組みを通して、人権、尊厳の保持。

・ 高齢者支援分野共通の取組み

・ 指針に基づいた取組みの実践

#### ② 法人接遇委員会と連携した接遇の具体的実践。

・ 敬語(尊敬語、丁寧語等)の実践、相手に身体を向け目線を合わす等

#### ③ 5 S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底。

・ 通常業務として位置づける

- ④ 運営推進会議において自己評価の評価を受けサービスの質の向上につなげる。
  - ・PDCA を回しながらフィードバックも図る。

## 2. 地域と共に

### (1) 社会とのより良い関係づくり強化する取組み

- ① 地域とのつながり強化。
  - ・声掛け、安否確認、見守り機器の導入、ちょこっと手伝い（除草、除雪、電球交換など）、お便り送付等
  - ・自治会・民生委員・社協・美山地区介護事業者連絡会との連携
- ② カフェ継続。
  - ・介護予防促進
  - ・地域の主体的な取組み活動への参画と支援
- ③ SDGs の目的及び事業での達成目標を全職員が共有と具体的実践の模索。

### (2) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ① 地域の福祉避難所としての機能強化。
  - ・高齢者支援分野におけるマニュアルの整備と統一
  - ・備蓄強化
- ② 全職員が認知症サポーター養成講座を受講。
- ③ 法人内給食事業と連携し、地域ニーズに基づいた弁当、仕出し等の販売促進。

## 3. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① あすわ ers に基づいた人財育成。
  - ・等級基準・バリュー・ラダーの日常的な OJT
- ② 計画的研修により全職員の資質向上。
  - ・年次計画を策定
- ③ 随時面談を取り入れ事業進捗の確認とフォローアップ（メンタル面含む）。
  - ・月に1回は全職員が面談実施（所属長との面談）

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 部門マネジャー会議における全拠点職務分掌の統一に向けた取組みの継続。
- ② 有給休暇の取得率向上、3連休が計画的に取れるよう取得推進の徹底。
- ③ 衛生委員会による労働環境の改善（ワークライフバランス、メンタルヘルス等）。

### (3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① 地元住民ニーズに即した多様な働き方の人材登用。

## 4. 実施プロセスの明確化

### (1) 法人の価値を高める取組み

- ① 事業所運営における様々なリスクへの適切な対処ができる体制構築。
  - ・事故・苦情・災害・感染症・緊急時・防犯等のマニュアルの整備

- ② 高齢者支援部門の連携会議・委員会の共通した取組みの継続による介護の質の向上。
- ③ 足羽利生苑改修工事に向け、高齢者福祉部門拠点 3 施設の特色・役割等包括的に鑑みた検討会議に参画。

**(2) 合理化と効率化を推進する取組み**

- ① 職員の負担軽減とサービスの質向上に資する先進機器の新システム導入にむけた検討会への参画。
  - ・ほのぼの連携会議で提示された記録システム等
- ② ICT 活用による経費削減・業務時間の効率化。
  - ・印刷コストの削減 20%
  - ・時間外労働削減 20%

**5. 経営基盤の強化**

**(1) 資金収支 10 か年計画を達成する取組み**

- ① 法人資金収支 10 か年計画を安定的に履行。
  - ・月次決算による経営状況の把握と、資金収支の分析
  - ・積極的営業の展開
  - ・事業所ごとの自発的な予算管理

**<数値目標>**

事業名	目標数	年間事業収入 (サービス)	職員数 (正規)	職員数 (パートタイム) (派遣)
小規模多機能型居宅介護	6,935 人(登録 19 人×365 日)	54,430 千円	8 人 (兼務 4 人)	9 人 (兼務 1 人)
認知症対応型共同生活介護	3,285 人(9 人×365 日)	47,841 千円	8 人 (兼務 4 人)	2 人 (兼務 1 人)
短期利用共同生活介護	168 人(1 人×168 日)			
合 計		102,271 千円	12 人	10 人

# 令和 3 年度事業計画

福井大東包括支援センター

## 実施事業

1. 地域包括支援事業
2. 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

## 中期事業計画（重点項目）

1. 各圏域での地域課題に応じた事例の取組みを常時研究、報告会で発信
2. 足羽福祉会・全職員認知症サポーター養成講座の受講  
(講座の開催協力 年 3 回)
3. 各職員が自分のスキルアップ及び課題克服のための研修を選び、または育成者と話し合い選定し受講。実務に生かしていることを実感！！

## 事業推進計画

1. 利用者様と共に・地域と共に ⇒ 住み慣れたわが町・わが家でのその人らしい生活支援
  - (1) 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み
    - ① 1 事例研究テーマを掲げる。3 地区の現状分析しその地区の課題や特性を探り、応じた取組みを実践。評価を行いサービス実践報告会で発信。
    - ② 新型コロナウイルス感染予防対応を、法人の感染症対策マニュアルや行政からの通達、または「新しい生活様式」に沿って自ら実践。さらに地域住民へ介護予防教室やデイホームなどで伝達や体験してもらい、安全・安心へ。
      - ・飛沫感染パネルの使用、貸し出しや防止策の住民への伝達。会議・研修は極力 WEB を使用して
  - (2) 安心・尊厳を守る取組み
    - ① 支援が必要な高齢者や地域の実態の把握。
      - ・個別訪問目標件数を 300 件とし、必要に応じて民生委員や福祉委員と連携して継続的に支援
      - ・相談窓口として出向いていた「憩いのサロン」のあり方を、新型コロナウイルス感染予防の観点から、さらに住民にとってより身近な窓口となるように各事業所と検討
      - ・大東包括支援センターの周知を図るため、開催される地域の催しに積極的に参加協力。
      - ・支援が届きにくい集合住宅へ徐々に広報

- ②地域住民に介護予防の重要性を理解・実践してもらうための取組み。
  - ・包括支援センターが立案する約 110 件と再委託 70 件、合計 180 件の予防ケアプランを管理
  - ・自立支援・重度化防止の視点で作成されているか主任ケアマネジャー、保健師などが予防プランを随時点検、アドバイス
  - ・自治会型デイホームなどに出向き、法人職員の協力をもらい、体操や栄養教室などでフレイルを予防
- ③認知症に対する理解普及促進。
  - ・地元スーパーもしくは地域の団体に 1 か所、認知症サポーター養成講座を開催 法人内での講座の開催支援は 3 回を予定。
  - ・愛全園などの事業者と共同で「介護者のつどい」を開催。介護者の声に耳を傾け、そこからさらに「本人参加のつどい」の開催へ発展
- ④地域福祉力向上の為の研修会の開催。
  - ・エリア内居宅介護支援事業所を対象に、事例検討会や勉強会。サービス事業所を対象に、合同勉強会を 1 回以上企画。
  - ・圏域のケアマネジャーや事業所と自立支援型ケア会議を 6 回以上  
⇒地域課題抽出
  - ・在宅ケア講習会の開催（1 地区）
- ⑤職員の「言葉遣い・挨拶・身嗜み・笑顔・環境整備」全てにおいて、『丁寧』を意識した取組みの実施継続。
- ⑥毎週水曜日に行っているハウスキーピングを倫理委員会中心に取組み継続  
日常の中で 1 日 10 分整理整頓・清掃清潔。

### (3) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ①地域住民のネットワークだけでは解決できない地域課題を発見し解決。
  - ・高齢者虐待に向け、地域住民や関係機関に対し研修会を実施。
  - ・消費者被害防止のための他包括や消費者センターなど関係機関との情報共有⇒高齢者が集う場や民生委員を通して注意喚起
  - ・本人や家族が複合的な課題を抱える現状を踏まえ、支える人を支える取組み家族支援、ケアマネ支援のための地域ケア個別会議 1 回以上
- ②医療機関と圏域の居宅介護支援事業所の連携強化を目指し、医療介護連携会議を 1 回以上開催（今年度は ACP に関して情報共有・検討）。
- ③地域課題解決と連携を目的とした地域ケア推進会議 2 回以上開催。  
参加依頼…地域住民、医療機関、警察、消防、民生委員、福祉委員、自治会

### (4) 地域のために法人資源を活用する取組み

- ①地域の防災力の向上の取組み。
  - ・包括支援センターとしての役割を明確化。
  - ・法人各事業との連携を含め、大規模自然災害発生時に対応できる指定避難所での活動、福祉避難所連絡など 防災マニュアル整備
  - ・大東民生児童委員協議会と連携し、各自治会地区自主防災組織とのネット

ワーク構築。

- ・地震・台風、水害、豪雪などの自然災害発生時での役割を確認し、それぞれのマニュアル作成
- ②法人内職員の認知症サポーター養成講座を開催、講師は法人内キャラバンメイトに依頼（活躍の場提供）、企画運営支援。

## 2. 職員と共に

### (1) 目標を描き、共に成長する取組み

#### ①あすわ ers 定着への取組み。

前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の理解を深め、ラダー等級基準項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施

#### ②「なんでも話しやすい人間関係」を維持。

#### ③個性を互いに尊重し、「チーム 大東」の形成。

#### ④各職種の専門性の向上及び自己課題の克服のために上司よりアドバイスをもらい、研修を選択。受講、実務で実践。

#### ⑤包括内研修として年に数回、外部講師を迎え、開催した研修や会議の事例振り返り⇒実践の PDCA サイクル。

#### ⑥相談支援の質の向上と職員の安心のために増加する虐待ケースや複雑な困難ケースへの対応は 2 名で対応。

#### ⑦随時支援方針や経過をミーティングや包括会議で共有・検討・振り返り。

### (2) 安心して働ける健康経営の取組み

#### ①職員の就業状況や意向の確認、時間外労働の毎月のチェック。

#### ②上司面談と、課題の解決。

## 3. 実施プロセスの明確化

### (1) 法人の価値を高める取組み

#### ①SDGs の取組み

「足羽福祉社会 SDGs 宣言」に沿って、2030 年を見据えての具体的行動計画の作成及び実践。個別のケースで生活困窮、防災やまちづくりは地域の課題解決の中で取り組む。

#### ②高齢者福祉分野における地域連携会議を定期的で開催。各事業所の地域での課題を常に探り、共に検討する。よりよい地域づくりを担えるように協力。

#### ③足羽利生苑改修工事に向け、高齢者福祉部門拠点 4 施設の特色・役割等を包括的に鑑みた検討会議に参画。

### (2) 合理化と効率化を推進する取組み

#### ①ICT 活用による業務改善。

「グループウェアを活用した電子決裁、ペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文章起案、供覧、保存等の具体的ルールづくり」

- ②会議・研修の Web 化を進化。
- ③スマートフォンを利用した、介護予防情報などの発信を、課題を克服して継続。
- ④HP やブログなど積極的に活用、第三者へのわかりやすい情報発信。
- ⑤担当や圏域のケアマネジャー同士の情報共有や・意見交換ができる Web を使ったツールづくり。

#### 4. 経営基盤の強化

##### (1) 法人収支 10 か年計画を達成する取組み

事業所運営を法人全体から支援。情報提供や委員会活動、研修サポートで法人への貢献。

##### <数値目標>

	ケアプラン数	職員数 (正規)
地域包括支援事業	2,160 件	5 人 (兼務 2 人)
介護予防支援事業	(月 180 件×12 カ月 委託含む)	3 人 (兼務 2 人)
合 計		6 人